

---

---

# 樹 守

2019

KIMORI

No. 28



一般社団法人日本樹木医会北海道支部

<b>特別寄稿</b>	ボランティアと技術者の協働による森林整備……………堀 達也	1
	「北海道支部今後の取組事項」の進捗状況……………豊田 栄	3
《新会員紹介》		
	いまどきの樹木医として……………久野 航	4
<hr/>		
	道東の桜めぐり（厚岸-根室-別海-弟子屈）……………金田 正弘	5
	弘前公園のサクラはなぜ100年以上生きているのか……………川口 治彦	10
	松前公園のサクラその三『蝦夷霞桜』……………山上 勝治	15
	[北海道外来樹種物語]ニセアカシア……………真田 勝	17
	珍しい樹木の話……………金田 正弘	20
	樹木医一年生の活動報告2018……………木戸口 和裕	24
	「2018 北海道の巨樹・名木150選」について……………今田 秀樹	30
	第3回事例発表会報告……………阿部 正太郎	33
	日本樹木医会静岡大会に参加して……………豊田 栄	37
	平成30年度「北海道支部技術研修会」報告……………阿部 正太郎	38
	平成30年度北海道支部の活動報告……………事務局	42
	石川忠雄氏を偲んで……………豊田 栄	45
	樹守（きもり）の編集と投稿方法……………	46
	編集後記……………	47

**表紙：栗林石庭のオンコの巨木（札幌市豊平区月寒東の八紘学園内）**

秋田県川連村（現湯沢市）から北海道開拓で入植した栗林元二郎氏は大病後、国内外農業開拓従事者の若き拓人養成をもって報国するとの決意から昭和5年に八紘学園を創設。昭和8年には当地に土地を得て諸施設と農場を開設した。晩年は日本に誇れる石庭とオンコの巨木園造成実現のために情熱を傾けていたが、82歳でこの地で生涯を終えた。庭内には収集した数多くの巨石と珍しい石のコレクション、イチイの巨木をはじめとした多数の樹木が植えられている。（顕彰碑より）



## ボランティアと技術者の協働による森林整備

公益社団法人北海道森と緑の会 理事長 堀 達也

昨年、北海道は相次いで台風と地震による災害に見舞われ、各地で大きな被害が生じました。とりわけ胆振東部地震では北海道で初めて震度7を記録し、41名の尊い命が失われ、多数の方々が負傷されたほか、住宅の倒壊や道路の損壊も相次ぎ、全道の停電や広範囲の森林の土砂崩れなどこれまでにない被害を経験することとなりました。余震は今も続いています。

被害を受けた森林の復旧には、多くの時間と努力が必要です。そのためにご尽力されている関係機関の皆様にご心から敬意を表する次第です。また、公益社団法人国土緑化推進機構が被災地支援のための用途限定募金をいち早く開始するなど、全国から多くの支援が寄せられていることに深く感謝を申し上げます。

しかし、長い歴史の中ではこうした災害は何度も繰り返されてきました。そして、森林はその都度、時間をかけて元の緑豊かな姿を取り戻してきたのです。森林は、災害によって傷ついても、自らそれを修復していく強い力を持っています。私たちが行う植樹などの森林整備は、こうした自然の力を信じて、それを手助けする大事な取組であります。

森林の整備はもちろん公的な事業です。国有林、道有林はもちろん、一般民有林も公的な資金を活用して整備を進めることは重要な仕事です。しかし、北海道森と緑の会が取り組んでいるのは、募金を集め、ボランティアで森林整備を行っていくことです。

ボランティアによる森林づくりの意義は、林業のプロではない広範な方々が森にふれあい、森林の大切さを理解し、森づくりに参加していくことにあります。また、ボランティアの方々が整備している森林は、経済ベースでの林業が成り立たない森林も多く、森林所有者も手出しをしてまで整備ができないが、放置しておくわけにもいかない。ボランティアだからこそ整備ができる、というところもあるのです。

昔、里山は地元の人たちが薪や炭の原料を採ったり、キノコのホダ木を採ったりして、こまめに手入れがされていました。山村の過疎化や高齢化がすすみ、必要な手入れができなくなってきた現在、その失われた部分を埋めていく有効な手段として、ボランティアによる森林整備が注目されています。

はじめは植樹、下草刈りなどからはじまったボランティア活動も、除伐、間伐、病虫獣害対策、様々な林産物の利用など、取り組みが進むにつれて多様化、高度化してきており、これらを適切に実施するための技術的サポートが重要になってきています。北海道森と緑の会が樹木医の皆様などの協力をいただいで実施しているグリーンコーディネーター派遣事業は、このような森林ボ



ランティア組織の技術的支援の要請に応じてまいりました。今後、森林ボランティアの活動の多様化と技術レベルの向上に伴い、こうした事業はますます必要とされるものと考えています。

さて、2020 年秋には第 44 回全国育樹祭が北海道で開催されます。平成 19 年 6 月に開催した第 58 回全国植樹祭において、天皇皇后両陛下がお手植えをされたアカエゾマツをはじめ、約 1 万人の参加者が植えた木々は大きいものでは 10 メートルを超える高さに育ち、今はボランティアによる間伐などの手入れが行われています。この森は「苫東和みの森」と呼ばれ、民間団体や個人も参加する苫東和みの森運営協議会が管理運営しており、下草刈りや除伐、間伐などの手入れは、多くの森林ボランティア団体などがエリアを分担して自主的に行ってきました。他の県では全国植樹祭の植栽地は公園などにして公的に管理するのが一般的で、苫東和みの森のようにボランティアによる森林整備が行われているのは珍しいことです。今後、全国育樹祭に向けて適切な密度管理や移植、景観の整備などが必要な場所もあり、これらの環境整備は日本樹木医会北海道支部の力も借りながら進めてまいりたいと考えています。

全国育樹祭の開催をきっかけとして、ボランティアと技術者の協働により、緑豊かで災害に強い健全な森林を育てていく取り組みの輪を、全道に広げてまいりたいと思っています。



「第58回全国植樹祭(平成19年6月24日)」での天皇皇后両陛下お手植えの様子



# 「北海道支部今後の取組事項」の進捗状況

日本樹木医会 北海道支部長 豊田 栄

昨年は前線の影響による大雨、また台風や最大震度7の地震といった自然災害が続けざまに発生し、道内各地に大きな被害をもたらしました。不意の災害に対する日頃の備えの大切さを思いつつも、今年は大きな災害のない年であって欲しいと願っています。

さて今年は「北海道支部今後の取組事項」が、2017年の通常総会で審議・承認されてから3年目になります。そこで現在までの取組進捗状況について一度確認をしておくことにします。

## 1. 「樹木医の知識と技術の向上」について

まず事例発表会ですが、スタートしてから毎年参加者数が多く、発表内容についても活発な質疑応答が行われるなど順調に進捗しています。会員の知識と技術の向上は支部としての大きな目的のひとつでもあり、うれしく思っています。

一方、会員の協力・支援、連携等による知識と技術の向上についても、少しずつですが進展しています。一例として会員間の呼びかけにより、樹木医としての経験年数や職場環境等に違いのある会員が一緒になって樹木診断、治療、樹勢回復等の業務を行っている現場を挙げるができます。そうした現場は特に実務経験の浅い会員にとって、経験を蓄積し新たな知見を身につける良い場となっています。今後、会員間における情報の提供・交換等がより活発に行われ、道内各地にこのような事例が増えていくことを期待します。

## 2. 「樹木医としての社会的知名度の向上」について

会員は各地で日々様々な樹木医活動を展開していますが、これまで新聞などで取り上げられたのは、残念ながらそのうちのごく一部で、決して多いとは言えませんでした。しかしこの2、3年は樹木診断や治療以外でも樹木医の多様な活動が徐々に新聞に取り上げられるようになってきました。こうした状況がこれからも続いていって欲しいと思います。

ただ、支部としての講演会や技術研修会、冬期事例発表会などの開催に関する報道機関への情報発信はこれまで一度も出来ておらず、公開治療等を含め今後の検討が必要です。

## 3. 「樹木医の社会貢献」について

グリーンコーディネーターとして道内各地域における環境緑化活動や札幌圏における緑化関係イベントでの樹木相談は順調に進んでいます。その一方、地方公共団体の緑化関係委員等に就任し、地域住民が大事にしている樹木や樹林等の保全・保護活動に関して提言出来るような立場にいる会員は僅かです。こうした面での社会貢献はまだ十分に役割を果たせているとは言えません。この件についても今後の検討課題です。

取組事項の進捗状況は、ここまで順調にきているものもありますが、全体的にはまだまだ十分とはいえません。いずれにしても時間がかかると思いますが、社会から信頼される樹木医組織を目指して、引き続き「北海道支部今後の取組事項」に取り組んでいきます。



## いまどきの樹木医として

久野 航 (28期)

平成 30 年度に樹木医認定を受けた、久野 航 (くの こう) と申します。札幌市内の自然環境調査コンサルタント会社で、植物調査などを行っています。プライベートでは、休日にたまにエゾシカ猟に出かけるのが趣味です。

資格取得の経緯ですが、もともと造園分野の大学で樹木医補の資格を取得しており、経験は少なかつたものの、受験資格は満たしていたため、樹木に関する知識をより深めたいと思い、今年初めて受験しました。研修センターでは仕事と勉強の両立が大変でしたが、同期の仲間たちと切磋琢磨し、全員無事合格することができました。いまどきの樹木医 (?) らしく、研修中にスマートフォンで同期の LINE グループがつくられ、研修終了後も全国にちらばる仲間たちと、「町でみかけたこの病気は〇〇かしら、あの虫は〇〇かしら」などと、覚えてたの知識をもとに日々やりとりしています。

仕事では植生調査や植物相調査が多いため、これまではおもに「種」として樹木を観察していましたが、研修を終え、樹木医認定を受けてからは、それぞれの樹形や根張り、傷などに目がいくようになり、「個」としての樹木を意識できるようになったと感じます。

樹木を診断するような仕事はなかなかありませんが、免許をとっただけのペーパードライバーにならないように継続研鑽していきたいと思います。

支部の一員として、今後ともよろしく願いいたします。

その他資格：技術士補 (環境部門)、2 級ビオトープ施工管理士、  
狩猟免許 (第一種銃猟、わな)

趣味等：狩猟 (エゾシカ猟)、登山

# 道東の桜めぐり（厚岸-根室-別海-弟子屈）

金田 正弘（11期）

初秋の道東各地を桜探訪の旅に出掛けました。9月25日(火)に苫小牧を出発、3泊4日の日程をこなし、28日(金)に戻りました。走行距離は千kmを越える長旅です。厚真町の地震発生後で行けるだろうか、さらに忙しい時期と重なる等、難しい時期の桜めぐりでした。その旅行記です。

## 1 厚岸町の桜（9月25日）

### （イ）国泰寺の老桜樹



厚岸町国泰寺



太枝が折れた老桜樹



老桜樹の開花（2011年5月22日）

老桜樹は天保元（1830）年、奥州石巻から移植したと言われるエゾヤマザクラです。樹齢189年は記録に残る国内最古のエゾヤマザクラです。昨年まで何事もなかったのですが、今年の旅で見た樹姿に大変驚きました。開花時と比べ、園路沿いに長く伸びた太枝は折損し、それを支えていた支柱も激しく折れていました。繰り返し発生した強風に耐えられなかったのでしょうか。主幹と2本の枝だけが残りました。今後の行く末が大変気になりました。

## 2 根室市内の千島桜（9月26日）

### （イ）清隆寺の千島桜



清隆寺千島桜の原木

### （ロ）裁判所前の千島桜



低く枝張の大きな裁判所の千島桜

清隆寺の千島桜（イ）は 1869 年国後島から根室に持ち込まれた桜です（当時、千島桜の名は付いてなかった）。推定樹齢 150 年で、千島桜の原木といわれる貴重な桜です。道内にある千島桜は全てがこの原木に起因すると思われます。特徴は横に広く伸びた枝張りで、樹高が 1m内外の這い性樹形です。近くにある根室裁判所前（ロ）の千島桜も樹高は低く、似ています（推定樹齢 100 年）。正に桜の盆栽と言うに相応しい樹姿をしています。

#### （ハ）根室市役所前庭の千島桜



庁舎前庭の千島桜



千島桜のてんぐす巢病

庁舎前庭には大きな千島桜が 3 本あります。2017 年、太枝が折れたので見てほしいと言われて、観察しています。現在、枯枝やてんぐす巢病枝の除去、除雪で折れた太枝の処置、施肥等、市農林課の人達が実施しています。千島桜は北方領土返還のシンボリックな存在で、今後の樹勢回復に期待しています。

#### （二）市民の森を散策



植樹祭の桜を手入



千島桜の遠方に見える町

根室市街地の入口付近に「根室市民の森」があります。毎年市民植樹祭が行なわれ、エゾヤマザクラ、ミズナラ、チシマザクラ等が植えられています。2m程に伸びた桜があり、手入れを行いました。今後、市民による育樹活動が必要と思われます。

#### (ホ) 明治公園の桜



公園入口の千島桜



エゾヤマザクラの胴枯病

「明治公園」の名前の由来は、昔、明治乳業の広大な施設があったことから付いたようです。今は公園になり市民の憩いの場として利用されています。入口正面に良形の千島桜がありました。枝張りが大きく樹高も 3m程あり、樹勢は良好のようです。園内にあるエゾヤマザクラの幹に胴枯病を見つけました。患部を開くと白いカビに覆われ、点々と黒い粒が付着していました。胴枯病菌の恐ろしさが窺えました。

#### (ヘ) 歯舞漁協前の千島桜



最果ての千島桜



手入れをする漁師さん

明治公園を後に、果てしなく続く草地を車で 20 分程走り、納沙布岬を目指しました。樹木はヤナギ類でしょうか、1m程の灌木がわずかに生えているだけです。やがて見えた立派な建物が歯舞漁協と漁港です。裏の空地に千島桜が数十本植栽されていました（漁師の人達が持ち寄り植えた）。樹高は1m内外と小さく、樹勢は良くありません。市、漁協の職員や漁師さんと一緒に手入れをしました（枯枝切り、除草、施肥）。この千島桜は日本の最東端にあり、平地で最も遅く咲く桜のようです。

漁港の先は歯舞群島、色丹島（北方領土）があります。有名な歯舞コンブ出漁の際はロシアにお金（入漁料）を払うそうです（漁期は6月～9月まで）。私が見ている日高太平洋沿岸のコンブ漁とは事情が大きく異なり違和感を持ちました。

### 3 野付の千島桜 (9月27日)



野付小学校内の千島桜 (計測)



千島桜の根元

野付小学校前庭にそびえ立つ巨大な千島桜は1906年(113年前)、同小の児童が小舟で野付半島から持ち帰った3本の苗の内、1本が育ったものと言われています。今回10年ぶりに樹高を測り、6mあることを確認しました(50cm伸びた)。昨年外柵を新設し、枝張周も50mを優に越すものと思われます(野付の人は世界一の千島桜と言う)。根元は株立状になり、太く長く曲がった独特の形を呈しています。前述した根室市内の千島桜と比べて大きさが断然異なります(この桜も含めて千島桜と言う)。野付の千島桜は過去に雪害による太枝の折損、てんぐ巣病、幼果菌核病の発生、ウソ鳥の花芽食害等大きな試練を乗り越えてきました。元気な樹姿に安心しました。

### 4 弟子屈町の桜 (9月27日~28日)

#### (イ) 摩周 道の駅の千島桜



道の駅 中庭の千島桜

花壇の中央にある千島桜は、2005年に野付の千島桜の実生苗を持ち帰った川湯在住の写真家横山さんが10年間育てた桜を道の駅に寄贈したものです。2015年5月に1.5mを越す立派な苗木になっていたのですが、翌春の除雪作業で根元から削り取られ、無くなってしまいました。落ち込んだ横山さんを見かねて、残った根系から2年かけて、ようやく再生させることができました。か弱い枝が数本伸び、高さ1.5m程に成長したようです。今後も観察が続きます。

## (ロ) 弟子屈町 名木桜の調査診断



枯死していたエゾヤマザクラ



開花時の弟子屈名木 (2006年5月22日)

今回私が楽しみにしていた桜めぐりの一つは、未踏のエゾヤマザクラに出会うことでした。町の名木エゾヤマザクラは H=13m、C=250cm の大きさと言われていました。牧草地に立つ一本桜で、赤の濃いベニヤマザクラのようです (観光客に人気の桜)。町内関係者の方々と勇んで現地に向かったのですが、調査の結果、既に枯死していることが解りました。2016年8月の強風で倒伏 (根がえり) し、すぐに所有者が起こし大量の土砂 (数mの厚さ) で埋め戻したそうです。生立時と見誤る樹姿がそれを示していました。残念としか言えません。一行の皆さんの落胆さは言葉に言いあらわせないものでした。

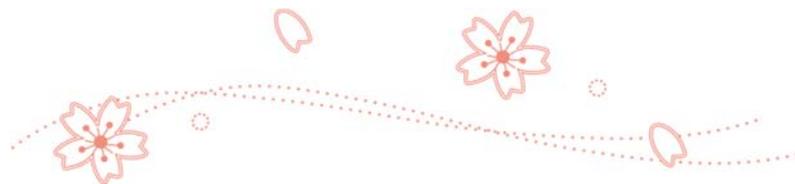
## 5 旅を終わって

旅の移動は樹木医を専業で活動しようと思い、購入した愛車 (レジアスエース 29万km走行) です。多くの傷や腐れは苦楽を共にした証です。

子供の頃3年間暮らしていた白糠町に立ち寄ったのですが、60年を越す歳月は浦島太郎状態でした。釧路を抜け根室に向かう国道は寂しく長い単調な運転でした。

宿泊でお世話になった「根室エクハシの宿」、「野付うたせ屋」、「弟子屈摩周温泉」は、かつて賑わった頃もあったそうですが現在は通過する観光地になり、釧路に泊る人が多いそうです。

納沙布岬から見える歯舞群島や野付、羅臼から見える国後島は目と鼻の先にあるにもかかわらず、「北方領土」と呼ばれています。今、大変注目されていますが、桜を介して何かできないものか、旅の終わりに考えた事でした。



# 弘前公園のサクラはなぜ 100 年以上生きているのか？

川口 治彦 (20 期)

以前から弘前公園のサクラは素晴らしいと聞いていたので一度は行ってみたいと思っていました。それで昨年 4 月 24 日、見に行ってきました。その日はあいにくの曇天でしたがちょうど満開で、そのボリューム感あるサクラに圧倒されました。園内にはソメイヨシノを中心に 52 種類 2,600 本のサクラがあり、その中には日本最古のソメイヨシノや日本最大幹周のソメイヨシノなど、樹齢 100 年を超えるソメイヨシノが 400 本以上あるのだそうです。

ソメイヨシノの寿命 (樹齢) は 50~60 年とされています。それなのに、なぜ弘前のサクラは長寿なのか、樹齢 100 年以上のソメイヨシノが 400 本以上も残っているのでしょうか。このことについて公園管理者からの聞き取りなどを基に私見を述べたいと思います。



写真 1



写真 2

写真は 2018. 4. 24 に撮影したもので、写真 1 のソメイヨシノは、幹径 40 cm 以上あるもので主幹がバツサリ切断されています。写真 2 は主幹が二つに分かれていて、その内の 1 本がバツサリと切断されています。台風か雪の重みで折れたのか、それとも病気によるものなのか、その原因は分かりませんが、2 本とも切断面周囲から太い枝が勢いよく伸びています。写真 1 の切断面



写真 3

外周にはカルス (癒合組織) が形成されています。そして、切断面は黒く処置が施されています。切断されてから何年も経っているのに切断面に塗られている墨汁? の色が新しく見えます。定期的には上塗りされているのでしょうか。

写真 3 のソメイヨシノも上述のものと同じように勢いよく枝が伸びています。何年かに分けて太い枝が切断されたのでしょうか、各々の切断面付近から太い枝が伸びてきています。このように弘前公園のサクラ (ソメイヨシノ) は太い幹枝が切断されてもその周辺から枯れてくるのではなく、反対に若い枝が伸びてくるのです。

私が住んでいる札幌ではサクラで主幹切断後にこのよ

うな勢いのある枝が伸びる樹姿はあまり(というより)、ほとんど見かけません。「桜切る馬鹿、梅切らぬ馬鹿」という諺がありますが、北海道でサクラに関して指導的立場にある樹木医の金田氏は、「直径 5cm 以上の枝の切口はなかなか塞がりません。その間にカビや虫に攻撃されます。若木のうちに早めの枝抜き、枝切りを行いましょ。正しい位置で枝を切り、必ず保護剤トップジンMペーストを塗布することが大切です」と言っています。また、樹木医の鮫島氏はサクラの剪定後の切断面や枝の出方について、「サクラは枝を切断すると組織の回復が遅く、その切断面から枯損するケースが多いが、エゾヤマザクラとソメイヨシノを比べると、前者はそれらが極めて悪く、後者はそれに比べて多少、枝が出やすい」と言っています。

そこで、弘前公園のサクラはなぜ太い幹枝を切断してもその切断面から腐朽しないのでしょうか。また、なぜその切断面横から勢いのある若い枝が出てくるのでしょうか。そのようなサクラを育てることのできる管理とはどのようなものなのでしょうか。それを知りたくて、弘前公園内にある緑の相談所と当公園を管理している弘前市に尋ねてみました。

質問 1. サクラの種類と管理本数

【回答】弘前公園には 52 種、約 2,600 本のサクラが植栽され、管理しております。

質問 2. サクラの年間管理スケジュール

【回答】2~3 月の剪定作業、6~7 月の施肥・土壌改良工、薬剤散布(年間 3~5 回)

質問 3. サクラの管理に要する人員

【回答】「チーム桜守」として樹木医の資格を持つもの 3 人と直営の作業員が 44 人おります。

質問 4. 年間施肥本数

【回答】約 2,600 本すべての桜に行っております。

質問 5. 具体的な施肥方法

【回答】平場は壺肥えをしております。樹木の周りを深さ 10cm~15cm 直径 30cm で 1 本当たりおよそ 10~30 箇所掘り起し、有機入り普通化成肥料と固形肥料を施します。法面は打ち込み型の肥料(グリーンパイル)を数か所施します(お濠の急斜面など)。

質問 6. 剪定(基本的な考え方と方法及び雪と風の関係)

【回答】枯れ枝や混み枝等を除く造園の基本的な剪定法に加え、老化した枝等生きている部分を剪定し若い枝を育てる剪定法です。切り方はアメリカの植物学者アレックス・シャイゴの剪定理論を参考にしています。雪の関係については、冬期間の雪の重みによる枝折れ防止対策として枝の雪下ろしを園内の主要なサクラに実施しております。風の関係については、剪定をすることで枝を整え、風を通すことで病虫害の軽減につながります。

質問 7. 弘前城のサクラとリンゴ農家の関係

【回答】当地はリンゴの生産日本一でリンゴ農家さんも多いです。昭和 30 年代からリンゴの栽培法を参考に桜の管理が始まりました。

質問 8. 弘前城のサクラと弘前大学の関係

【回答】弘前公園さくら研究・育成事業調査研究業務として委託しております。平成 29 年度はサクラの発芽促進と開花生理に関する研究の他、サクラのシダレ性や弘前公園のサクラの開花予測の指標にしているマルバマンサクの開花生理などについて行いました。その他サクラの着色機構についても研究していただいております。

以上の1~8をまとめると、弘前公園にある2,600本のサクラを3人の樹木医と作業員44人で、大学と連携しながら、リンゴの栽培法を参考に剪定・施肥・農薬散布など年間を通じて管理している、ということのようです。弘前公園のサクラは毎年見事な花を咲かせる日本でも有数、いや、日本一のサクラの名所とされています。

それでは、なぜ、弘前公園のサクラ（ソメイヨシノ）が100年以上も長生きする弘前方式と呼ばれる管理が根付き、組織として確立することができたのでしょうか。このことを1.リンゴ栽培とリンゴ農家（技術の継承）、2.津軽地方の地形と風、3.歴史・伝統の三つの観点から探ってみます。

## 1 リンゴ栽培とリンゴ農家（技術の継承）

弘前公園のサクラはリンゴの栽培方法を取り入れたと言われていますが、その経緯などをウェブページで調べていると、面白い記事を見つけました。報道機関の記者が弘前公園を実際に管理している人にインタビューする記事です。

「桜はいつから定期的に剪定されているのですか？」との問いに対して、「桜は明治時代からありましたが、特に手入れはしておらず、枯れ枝のみ剪定していました。昭和30年代に当時の公園管理事務所長がいつも通り枯れ枝の剪定指示をしたら、職員の方が間違えて枝ではなく幹を切ってしまった！」のです。当時えらく怒られたのですが、その切ってしまった方の実家がリンゴ農家で、リンゴを剪定して管理されていたノウハウもあり、桜も同じようにすれば大丈夫だろうと。そのまま、その切ってしまった桜の様子を見ていたのですが、次の年花が終わった後、幹を剪定したところから、新しい枝がどんどん出てきて元気な枝が出てきたのでそれを間引いたり、いい枝を残して大きくしていたら花を沢山つけるようになったんです。実は一番大事なのは剪定じゃなくて肥料なんです。肥料をあげて木を元気にしてやることで、剪定しても元気な枝を出すようになるんです。肥料をあげる時期は、昔は花が終わった後の「お礼肥」と「寒肥」の2回でしたが現在は「お礼肥」のみで行っています。」と答えていました。

ここで重要なのは、枝ではなく幹を切った人がリンゴ農家の方ということです。リンゴを生産するためには、2月末頃？ から剪定を行い、春先の施肥、開花期の受粉作業、袋掛け、年間を通じて10~13回、平均2回/月の農薬散布などなど、春先から晩秋まで1シーズンを通じて様々な作業が続きます。その間には台風などの強風に襲われることもあり、傷のない売れるリンゴを生産するのは大変な手間と時間のかかる作業です。リンゴの花を咲かせることは、立派なリンゴを作ることに比べたらほんの序の口、仕事の始まりに過ぎないのです。

このようにリンゴ栽培の経験のある人に、「リンゴの剪定はどのようにしている」と言われたら、リンゴとサクラは同じバラ科で同じような花が咲く近縁種であることもあり、公園の樹木管理責任者でも、そのことを完全に否定はできないものです。それなら様子を見ようということになります。しかし、1本の剪定の間違いがその後、2,600本全てのサクラに新しい剪定方法と施肥をするようになるには、それなりの背景と理由が必要です。ある組織が管理方法を確立し、それを継続するには人と予算、技術の継承が必要です。

弘前市とその周辺には、リンゴには農薬を必ず散布する必要があることと、いつの時期にどんな作業をするのかなど、リンゴ栽培とはどんなものか？ということをおおよそ理解できる人が、リンゴ栽培をしている農家の方はもちろん、その関係者が多くいて、弘前市がそれらの人々を採

用しサクラの管理をしてもらえれば、市の管理担当者が技術的に事細かく指導しなくてもサクラの管理がスムーズに出来たことは容易に推察できます。また、実際に作業する人の入れ替わりにより、技術の継承が困難になることの可能性も低くなります。弘前市は、公園樹木の剪定技術者ではなく、作業員でありながらリンゴ＝サクラの管理スペシャリスト、実務専門家を比較的容易に、しかも継続的に雇い入れることができたかと推察できます。

リンゴには腐らん病 (*Valsa ceratosperma*) という恐ろしい病気、胴枯病があります。この胴枯病が幹の全周を巻くと、そのリンゴは伐採しなければなりません。この病気が明治・大正時代に青森のリンゴ地帯に蔓延したそうです。リンゴ生産者にとっては自分たちの生活を脅かす恐ろしい病気です。おそらく、農家の方は春先の剪定などでリンゴの幹枝を見るときには、この病気が付いていないか必ず見る習慣がついていたのではないのでしょうか。

一方、サクラは、てんぐ巣病、こぶ病、胴枯病などの病気にかかり易い樹で、病気の百貨店と言われています。特に胴枯病 (*Valsa ambiens*) は深刻で、「北海道 樹木の病気・虫害・獣害」に以下のように書かれています。

「太い枝や幹が侵される。病斑部は少しくぼみ、しばしばヤニの滲出が見られる。やがて病斑部には多くの小さな隆起が形成され、のちに小隆起部分の樹皮は横に裂け、病原菌の菌体の一部（分生子殻、のちに子のう殻）が現れる。病斑が枝や幹を一周すると、巻き枯らし状態になって上部が枯れる。初夏、枝幹の途中から先の葉がすべて褐変萎凋している場合は本病の可能性が高い。本病は、北海道のサクラの枯損の主要原因になっている。被害軽減には、病斑や枯死枝などをこまめに除去して焼却し、切口にチオファネートメチルペースト剤などの殺菌剤を塗布する。エゾヤマザクラ、チシマザクラ、ソメイヨシノなどの多くのサクラ類に発生する」とあるように、サクラにもリンゴと同じように深刻な病気（胴枯病）が存在します。ということは、弘前公園のサクラを管理する作業員の方＝リンゴ農家の方かその関係者の方は、基本的に胴枯病を見る目を持っており、しかもその病気の恐ろしさも知っているので、リンゴ同様に当然にサクラについても見つけ次第こまめに除去・焼却処分をし、その病気を削り取った傷口には適切な処置（腐らん病で養った技術を参考にして）を施したのではないのでしょうか。適切な剪定・農薬散布・施肥はもちろんですが、普通の公園などではほとんどなされていない、この胴枯病対策、リンゴ生産者にとっては当たり前の作業が弘前のソメイヨシノの寿命を長くすることができている一つでしかも大きな要因と考えられます。

## 2 津軽地方の地形と風

北海道の新ひだか町（静内）に「日本さくら名所 100 選」に選ばれている二十間道路桜並木があります。昨年 9 月に樹木医の研修会で 30 年ぶりに行ってきたのですが、そのとき、そこのエゾヤマザクラを見て感じたのは、樹木の大きさが札幌のものに比べて一回り大きいのです。樹高が 15m 以上あるような樹が並んでいるのです。桜並木の両外側には針葉樹が植えられているので、これが風除けになって枝折れなどを防いでいるのだらうと推測しました。

札幌市内のサクラを見ていると、地域によって風がサクラの成長に大きく影響していることを実感しているので、弘前公園内にある緑の相談所に行って、この件について尋ねてみました。

「風による幹枝の損傷よりも、この地方の重い雪による枝折れの方が重大で、毎年その対策はしております。台風のときなど他のところで強風が吹いたと言われているのに、ここはそれほど

でもない。岩木山が影響しているのかもしれませんが」という内容のことを述べてくださいました。気象庁のホームページで調べてみると、弘前の過去 30 年間の年間平均風速は 1.7m/s で、青森市 3.7m/s、ちなみに、二十間道路桜並木のある静内は 1.9m/s で、札幌は青森と同じ 3.7m/s でした。弘前の南には白神山地、北西には岩木山が位置しているため、夏の台風やシベリアから吹き込む冬の北風もこれらの山の存在によって和らげられているのでしょうか。

強風による太い幹枝の折損は、上述の樹木医金田氏が述べているように、その傷口はカビや細菌、害虫の攻撃の的となります。それが原因で樹勢の衰退を招き、その後枯死か鑑賞に値しない樹形になって伐採の道を辿ることになります。この強風による樹木の衰退、逆に言うと、弘前の風の弱いことがソメイヨシノの長く生き残れている（樹齢を長くしている）大きな要因の一つではないかと考えています。

### 3 歴史と伝統

ウェブページで調べると、弘前城には明治初期から多数のサクラが植樹されてきているようです。1882 年（今から 136 年前）に旧藩士で青森のリンゴの開祖と言われる菊池楯衛が 1,000 本のソメイヨシノの植樹を行っています。その後も旧藩士や一般市民による寄付や植樹が行われて現在に至っているようです。また、弘前城は文化財保護法が制定された 1950 年に国の史跡（重要文化財）に指定されています。

このように弘前城のある弘前公園は、弘前市民にとって郷里の先輩たちが植えてくれた、守り育てなければならぬサクラのある大事な遺産・重要な資産であるのです。上述したように、サクラの維持管理（弘前方式）を継続させるには、人と予算が必要です。その意味で、弘前市の公園管理者がサクラを守り育てる目的で予算を獲得すること、そのための市民や市の内部組織から合意を得ることは困難であっても比較的的理解は得やすかったのではないのでしょうか。

以上、「なぜ弘前公園のソメイヨシノは長寿なのか？」について、1. リンゴ農家とリンゴ栽培（技術の継承）、2. 津軽地方の地形と風、3. 歴史と伝統の 3 点から想像と推測で私なりに考えてみました。弘前のサクラを見るのは初めてで、しかも、弘前のこと、弘前のサクラのことは何も知らないのに、おこがましくも書いてしまいました。ここが違っている、あそこが間違っているなどご指摘があればご意見ください。

今度弘前へ行くときは、青空に映えるサクラとお濠の水面を埋め尽くす花びら、「花筏」を見たいと思っています。



# 松前公園のサクラその三・『蝦夷霞桜』<sup>えぞかすみざくら</sup>

山上 勝治 (5期)

## はじめに

この3年間、‘さくらの里松前’に於いて、サクラの保護・育成、樹勢の回復活動に、地元住民の皆様と共に参加させていただきました。本稿では一昨年の光善寺の血脈桜に引き続き、地元の有志の方々と共に昨年行われた龍雲院の蝦夷霞桜(エゾカスミザクラ)の堅穴式土壌改良による樹勢回復についての紹介をしたいと思います。この際に行われた講習会、実演指導はグリーンコーディネーター派遣事業によるものです。

## 蝦夷霞桜(エゾカスミザクラ)【龍雲院】

カスミザクラは、四国、本州、北海道に自生する野生種のサクラです。白色～淡紅色の花が緑褐色の若葉と同時に開花し、ソメイヨシノやオオヤマザクラよりずっと後で、遅咲きのサトザクラと同じ頃開花します。北海道での分布は道南の山地に多く、花は変化に富み、変異が多くみられます。元北大教授の館脇操博士によって、松前町龍雲院の老木をエゾカスミザクラ、他の変異株をウスゲカスミと命名されました。カスミザクラの系統からはすでに奈良時代に発見され、培養されて来た奈良八重桜(ナラヤエザクラ)があります。

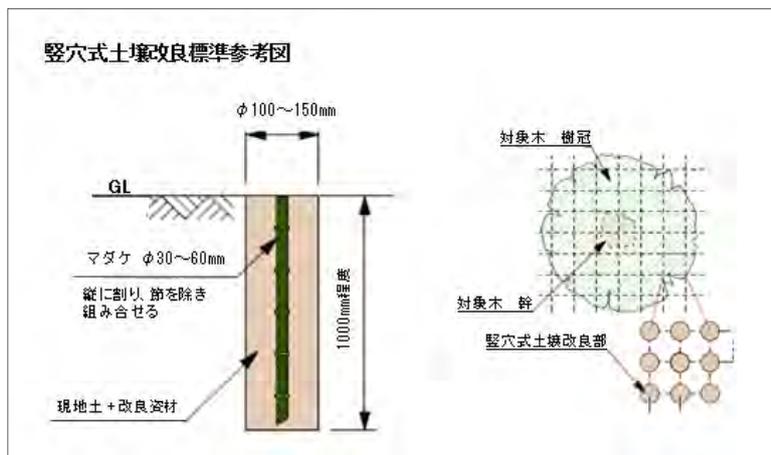


江戸時代にはこの系統から生まれたと推定されるサトザクラもあります。松前町において昭和時代にこの系統から、八重の大輪、紅玉錦(ベニタマニシキ)などが桜研究家浅利政俊氏によって開発され、国内外に植栽されています<sup>1)</sup>。これ以外にもカスミザクラの系統のサクラは浅利氏の手によって多数発掘、育成されています。

## エゾカスミザクラ現況外観目視判定

枝葉が減少傾向にあり、ふところ枝が不足し、若齡枝が少ないため、活力不足の印象を受ける。枝葉の量、色、形状、枯れの程度から判断し生育状態はやや衰退傾向。骨格枝に再生不良の欠損(剪定痕)、がんしゅ病がいくつか見られる。欠損部の乾燥化や腐朽の進行に注意を要する。根元近くまで人の出入りが可能であるため、踏圧による表土の固結化が見られ、根の成長(伸張)の妨げとなり衰弱の原因となっている。行き届いた下草の除去管理がなされているが、土壌の養水分の保持力の低下や欠乏にもつながっている。今後は剪定・施肥などの定期管理のほかに生育地盤の土壌改良など、樹勢の向上を目的とした作業を積極的に取り入れる必要がある。樹木本体に対する大枝剪定、欠損部処置、その他治療行為は一定の活力がなくては効果が得られず、衰退木に対し直接行う大枝の剪定、治療行為は樹勢の衰退を招き逆効果となる。

## 樹勢回復作業の実施【縦穴式土壌改良】

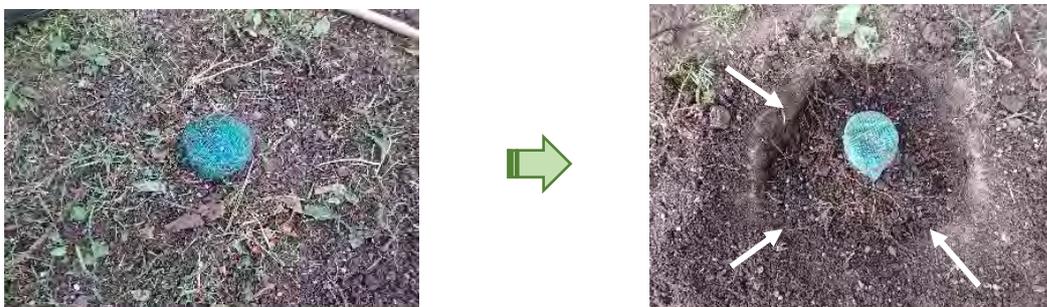


縦穴式土壌改良作業状況

### 縦穴式土壌改良の効果と利点

- 土壌の通気性、透水性、保水性の改善、施肥効果等により樹勢の向上に有効である。
- 現況土壌を利用でき、小規模作業が可能、予算に応じた施工規模が設定できる。
- 資材、道具の調達が容易で、単純作業であるため、一般の参加者にもわかりやすい。
- 計画、施工段階で条件に合わせた内容に修正がしやすい。

### 縦穴式土壌改良の経過確認



実施後1年経過、縦穴に多数の細根が伸びている。改良の効果が確認できる。今後、場所を変えて行う追加施工の検討、肥料計画の参考となる。

### 引用文献

- 1) 第1回さくらセミナーin松前講習資料 日本・北海道の桜の自生種とその園芸種 桜研究家浅利政俊

## ニセアカシア

*Robinia pseudoacacia* マメ科 ニセアカシア属

真田 勝 (8 期)

ニセアカシアは北米原産でロッキー山脈の東側北緯 39~43 度の間、とくにヴァージニア州に多い。北米におけるアカシア属は南部に、ニセアカシア属 (*Robinia*) は東北部に生育し、世界には約 20 種あり北アメリカと中央アメリカに分布する。アカシアは暖地にしか育たないがニセアカシアは耐寒性があり、世界各国の街路樹や公園樹、砂防用樹として植栽され、北海道でも良く育っている。日本には明治 6 年 (1873) ごろに渡来し各地に植えられたと言われ、今では野生化しているものも多い。

当初はニセアカシアをアカシア (明石屋) と呼んでいて、後に本来のアカシア (アカシア属ミモザなど) が輸入されるようになり、区別するためにニセアカシアと呼ぶようになったといわれるが、今でも混同されることが多い。ニセアカシアの名前は学名の直訳であるが、アカシアの偽物ではあまりにも気の毒だからとエンジュに似ているがトゲがあるのでハリエンジュとしたが、語呂悪くあまり使われず単にアカシアと呼ばれることが多い。

札幌のアカシア並木をはじめとし、白秋や啄木、演歌歌手など詩歌にも多く出てくる (山本五男氏によれば曲名にアカシアが出てくるのが 27 曲、ほかに歌詞に出てくるのは数知れない…ツリードクター 21 号)。アカシアはほとんどニセアカシアのことであり、「……アカシアの花がさいている……」とか「……アカシアの雨にうたれて……」というところを「……ニセアカシアの花が咲いている……」、「ニセアカシアの雨に……」なんて歌われたのでは様になりませんと、鮫島惇一郎氏の「北 2 条アカシア並木」のエッセイに書かれている<sup>8)</sup>。

北海道には日本渡来とほぼ同時に、明治 6 年、札幌神社 (現北海道神宮) の裏参道に植えられたのが最も古いようだ (平成 24 年度の研修会 - 円山公園でベッコウタケに侵されたニセアカシアを診断したがその樹かもしれない)。その後あちこちに植えられたがその経緯は、沖野丈夫氏による「ニセアカシア並木の 74 年」と題した調査研究報告に詳しい<sup>3)</sup>。昭和 30 年の札幌市史概要年報等からの採録として列挙されているがその中から一部紹介すると、

- 明治 14 年 4 月 東京青山開拓使試験場から桐、神樹、明石屋の苗を札幌に移した。
- 明治 16 年 4 月 円山南 1 条に公園道路を開削し松、アカシアを植栽した。
- 明治 18 年 5 月 佐藤秀顕の発案によって駅通りにアカシア、サクラ、ヤナギを二間間隔で両側に植栽した。
- 明治 21 年 駅通りにアカシアが植えられた。苗木は東京、津田仙氏養成を購入とあり。
- 明治 23 年には宮部博士の街路樹愛護の公開演説が行われた。

\* 宮部金吾博士は明治 22 年米国より帰朝せられて、公開演説に於いて「路傍樹の有無は市街の品位を差別し路傍樹のある市街は児童の徳育に可なり、欧米における新市街は必ず路傍樹を植ゆ、本道も亦倣ふべきなり、但し樹木の選擇必要あり、札幌現在の榎松、櫻は適当にあらざ路傍樹は



花樹を要せず、葉と形との美なるを貴ぶ、本道産榆こそ其形美にして且つ永続すべきものなるべし」と述べられたとか<sup>1)</sup>。

その後も随時あちこちに植えられたようだが、大規模に植えられたのは大正 5 (1916) 年春にイタヤとニセアカシア合わせて 2,300 余本が市街の風致と衛生関係から植栽された。その内ニセアカシアが植えられたのは北 1 条通り西 1 条より西 15 丁目までの両側と北 2 条通りも同様に約二間の苗木が三間の間隔で植えられた。100 年を過ぎた現在残っているのは少なく、交通量の多い北 1 条通りは全滅と見られ、静かな北 2 条通りに数本残るのみとなり改植されている。また札幌時計台にも古木があるが、ほぼ同時に植えられたものと見られる。その証に昭和 58 (1983) 年に正面左側のニセアカシアが衰退、上部の太い枝も枯れて危険はもちろん、景観上も日本三大ガツカリ名所に上塗りするわけにはいかないと、なにせ少し離れて正面から見ると上部の枝が時計の左側にかかっているように見えて、時計台の景観に趣を添え、いわゆる“札幌のシンボル”となっていた木である。市文化財保護審議会の議を経て伐倒することになり、市は今回の衰退の原因を明らかにすることが、今後の二代目ニセアカシアを育てる参考になるとの考えから農林水産省林業試験場北海道支場に調査を依頼した。筆者も土壌の面から調査に加わった思いがある。

8 月 8 日に伐倒されたニセアカシアは実測の結果、樹齢 63 年、樹高 17m、直径 (地上 0.3m) 80.6 cm であり、樹齢は今から 36 年前に伐倒されたものであるが、計算すると 102 年で、北 1 条の植栽 (時期) とほぼ一致する。

なお、伐倒後は抜根して周囲の土壌を新鮮な土壌と入れ替え、さらに殺菌剤を投入し、2 か月後の昭和 58 年 10 月 12 日、時計台祭当日、樹高 6m、推定樹齢 20 年の新しいニセアカシアが二代目として跡地に横山造園の手で植え付けられ<sup>7)</sup>、現在では元のように大きく育っている。

北原白秋 (明治 18 (1885) 年～昭和 17 (1942) 年) の「この道」はどこの道なのか……。札幌市北 1 条が定説となっているがいつ来られたのか、晩年とあるが定かではない。雑誌「赤い鳥」に発表されたのが大正 15 (1926) 年であるからその前、北 1 条にニセアカシアが植えられて約 10 年前後、若々しい枝葉に真っ白な花がたくさんつけている風景が想像される。

札幌のシンボルとなった駅前のニセアカシアは明治 18 年植えて、その後舗装工事 (s5 年)、グリーンベルト (s11 年)、電車道の設置、補植 (s31 年) など、幾多の変遷があり、昭和 33 年には拡幅整備のため明治の植栽木はほとんど切られてしまった<sup>3)</sup>。市電も無くなった現在は中央分離帯にハルニレ、両側の歩道には古来のシンボルとしてニセアカシアに変わりトゲナシアカシアが平成 25 年に樹木医仲間の石山造園の手で植栽され順調に生育している。



新 5 か年計画を報じる新聞記事 (朝日新聞)

昭和 35 年市民投票によって決められた市の木はライラックだが、2 番目はアカシアだった。また、老舗百貨店松坂屋がすすきのに札幌店（現ラ・フィラ）を開いた時のキャッチコピーは「アカシアの花白く、いま開く松坂屋」であり、当時アカシアは市民に愛され、親しまれていたが、昭和 50 年代には嫌われ者になってしまった。理由は落ち葉の問題、虫、倒木しやすいほか、長い冬に耐え一日も早い春を待ち望む市民にとって芽吹きが遅い、サクラが咲いてもまだ枯れ木同然ではやりきれない思いであろう。市は当時の 5 か年計画からニセアカシアの植栽を除外した。

また、現在では外来種の問題として多くの問題を発生させている。マメ科で根粒菌を持つためやせ地でも育ち、種のほか根から萌芽するため繁殖力が大きい。やせ地や治山など全国で植栽され、野生化して在来樹種を駆逐している例が見られ、大きな問題となっている。一度侵入するとトゲがあるので非常に扱いにくく、駆除もなかなか進まないのが現状である。

こんな減少傾向の中「札幌一のアカシア・ロードに」と昭和 56 年から 2 年がかりで南郷通り全長 5.8 km の中央分離帯に 2 列チドリに 1,200 本植えられた。ところがその下を地下鉄が通り、地下水が遮断されたため乾燥防止に散水装置が仕組まれた。現在は順調に育ち、延々と続く景観は圧巻だが樹高が高く、剪定作業など管理が大変のようである。

このように時代によってニセアカシアに対する市民感情は異なるが、「あ〜まい香りに誘われて〜」と歌われているように蜜源植物としても欠かせない樹種である。国内の蜂蜜生産の 44% がニセアカシアで、長野県では 74% を占める。また薪炭材や砂防、治山事業にとっても重要な役割を果たす樹種であることに変わりはなく、異常な繁茂にならないよう適切な管理体制が必要と思われる。

#### 参考・引用文献

- 1) 柄田五市郎：帝都の行道樹を見て北都に於ける行道樹の管理経営に就きて改良を促す、北海道林業会報 17 (3)・(11)、1919
- 2) 重野末松：札幌市内及び附近に於ける樹木の歴史、北海道林業会報 21 (9)、1923
- 3) 沖野丈夫：ニセアカシア並木の 74 年、北方林業 11 (1)、1959
- 4) 林弥栄：有用樹木図説、成文堂新光社、1969
- 5) 世界の植物：朝日新聞社、1978
- 6) 村野紀雄：札幌の並木、北大図書刊行会、1982
- 7) 林康夫・遠藤克昭・真田勝・佐藤明：札幌時計台ニセアカシアの枯損、北方林業 36 (8)、1984
- 8) 鮫島惇一郎：回想の風景・札幌―遙かな日々の記憶―、富士コンテム、2007



日本一のアカシア並木に散水（朝日新聞）

# 珍しい樹木の話

金田 正弘 (11期)

## 1 白実のナナカマドの移植

白い実の生るナナカマド3本の存在に気付いたのは、2013年11月地元紙の記事を読んでからです。当時、西舎の桜並木で仕事をしていて、ここから数百mしか離れていないJRA（日本中央競馬会）日高育成牧場内に白実のナナカマドがあったことに大変驚きました（樹守No.25に記載）。

あれから5年後（2018年10月）、JRA日高育成牧場は浦河町に1本を寄贈してくれることになり、浦河優駿ビレッジエル前の公園に移植することができました。その経緯を紹介します。

### (イ) ナナカマドの移植 (10月4日)



植付状況



ナナカマドの根鉢

大きな根鉢は、掘取り担当の人達（清水町瑞勝園）に手間をかけさせたと思われます。植栽は地元の業者（グリーンマインド）のおかげで無事完了しました（地ごしらえ、植付作業）。

### (ロ) 浦河町の白実のナナカマド (10月10日)



白実の拡大



白と赤実の対比

道内自生種のナナカマド (*Sorbus commixta*) は、代表的な緑化木として街路や公園の緑地に多く植えられています。白実のナナカマドは珍しいということで調べてみました。<朝日百科



植物の世界 53、p. 137 より> 「ナナカマド属が最も多様性に富むものは中国からヒマラヤ、カラコルム、天山山脈にかけてである。この地域には 40 種以上が分布し、地をほう低木から高木、葉の形状もさまざまである。なかでも興味深いのは果実の色であり、赤やオレンジに加え、白、黄、ピンク、紅色など多彩である」。本文中に白実の画像があり「*Sorbus koehneana* (ソルブスコエネアナ) 中国中西部に分布する。小葉は長さ 1.5~3 cm で 8~12 対である。果実は白く熟す」とありよく似ています。

#### (ハ) 白実のナナカマドの維持管理 (10 月 21 日)



根系周辺の施肥



優駿の里公園のナナカマド

白実のナナカマドは 1992 年 (27 年前) 緑化木として J R A の敷地内に植栽されたようです。J R A は白い実が生り、珍しいので 3 本を社宅前に移植したそうです。2014 年に初めて見た時、幹に激しいシカの食害傷を負い、柵の中で草だらけになっていました。見かねて傷の処置と除草、剪定を行った記憶があります。その後 J R A の事務所に行く折りに、貰えないかとお願ひし続けました。2018 年念願適って公園に移植することができました。浦河町の新たな観光資源として利活用が期待されています。

## 2 枝垂性のエゾヤマザクラに出会って

北海道の桜と言えば、エゾヤマザクラが最も身近な存在です。正式名称は、オオヤマザクラ (*Cerasus sargentii*) と言い、冷温帯に分布し、雪や寒さに強く、花弁が大きく、花色が赤いのが特徴です。

桜研究者としての活動は、道内野生種の桜を多く観察する事でした。どれだけの桜を見たことでしょうか、数えたことなどありません。観察をし続けていると偶然珍しい変異を持つ桜に出会うことがあります。

2012 年の話ですが、自宅から歩いて行ける小さな川沿いの桜並木を通ると枝が下を向いている 1 本の桜が目にとまりました。「枝垂性のエゾヤマザクラかもしれない!」。しかし半信半疑だったこともあり 2 年間観察を続けました。2015 年になり、桜並木を所有・管理している苫小牧市緑地公園課の担当者に事情を話し、了解をもらうことができました (以後剪定を行う)。

苫小牧市小泉の沢川にある枝垂性のエゾヤマザクラを解明できるでしょうか、考えてみました。

### (イ) エゾヤマザクラの樹姿と開花 (2018年5月8日)



並木南側からの樹姿



市道西側からの樹姿



しだれる枝に咲く花卉

道路と狭い河川敷地の間に100本程のエゾヤマザクラが並木状に育っています。市緑化係の担当者から20年程前に緑化工事で造園業者が植栽した並木であることが解りました。2015年から河川改修工事に伴い護岸仕切り壁や盛土嵩上げ等がなされ、一部枝の切除に遭遇しました。当時はとても心配でした。

### (ロ) シダレオオヤマザクラの存在

「新日本の桜」(山と溪谷社発行) P. 211 にシダレオオヤマザクラ *Cerasus sargentii* (Rehder) H. Ohba *f. pendula* (Honda) H. Ohba の記載がありました。「十和田湖畔で発見されたサクラ。十和田湖以外からは今のところ報告がない。オオヤマザクラの枝がしだれる一型である」。

十和田湖畔のサクラを見たわけでもなく、苫小牧にあるサクラが枝垂性かどうか見当が付きません。樹木の枝が下に垂れる原因の中に、生育環境の変化でたまたま枝が垂れる場合があるからです。日本花の会 結城農場長で11期樹木医の田中秀明氏(「新日本の桜」の著者)に画像を送った所、すぐに返事が帰ってきました。「枝が本当にしだれているかどうかを証明しなければならぬので、そこにある枝(穂木)を直ぐに送ってほしい。接木苗を作り、それがしだれて生育したなら正真正銘の枝垂大山桜になる」という話でした。

2015年2月15日、採取した枝をダンボール箱に詰め、日本花の会結城農場に送りました。田中氏は3月に入り(彼岸過ぎ)接木を実施したようです(台木は、オオシマザクラの実生苗)。寒くなった11月20日に20本の接木苗が茨城県から里帰りしてきました。

### (ハ) 接木苗の養生



生き残った苗木(枝がしだれる?)

2016年春になり生長を楽しみにしていたのですが、残念なことに2本を残し18本の芽が伸びることはなく枯死してしまいました。花の会農場に見本として残していた苗も全て枯れてしまったとのこと。原因は、わかりませんでした(台木との親和性、苫小牧と結城の気象差、里帰り苗越冬の失敗?)。

2018年3月、田中氏と相談してもう一度やってみたいと再度穂木を送りました。この年の11月末に20本が接木苗となり、2回目の里帰りが実現しました。とても嬉しくて、春の芽出しを心待ちにしています（現在、自宅で越冬養生中）。

## （二）継続する取り組み

苫小牧市サンガーデンで緑化相談員をしている後藤樹木医らにより、同温室でエゾヤマザクラ実生苗にシダレ性の穂木を接木する案が浮上しています（2019年3月に穂木を採取し提供する予定）。いずれにせよ小泉の沢川沿いの枝垂性のエゾヤマザクラ原木がある限り、真の「枝垂大山桜」と証明できるまで取り組みを続けるつもりです。

## （ホ）人気のある枝垂桜

日本で人気のある枝垂桜はエドヒガンの園芸品種シダレザクラ、ベニシダレ、ヤエベニシダレになります。桜の樹木学（近田文弘著 p.127）オオヤマザクラに由来するシダレオオヤマザクラもありますが、非常に稀な種類です。園芸的に観賞価値の高い枝垂桜はエドヒガンが生みの親で、ヤマザクラやオオシマザクラではないといえます」の記載があります。

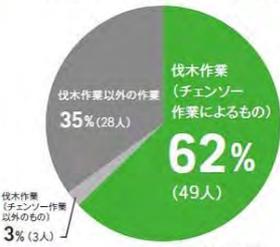
苫小牧市小泉の沢川沿い、1本のエゾヤマザクラは貴重な発見になるか否か、もう少しで結論が出るかもしれません。

■チェーンソーを使用する方へ～2019年8月1日から義務化。

### 防護ズボン着用の義務化が始まります！

厚生労働省より「チェーンソー防護ズボンの義務化」についての省令が公布されました。2019年の8月1日より、チェーンソーを使用する業務に携わる全ての作業者の方に、チェーンソー防護ズボンまたはチャップスの着用を義務化する内容です。林業においては2015年10月より既に義務化されておりますが、今後は造園業や建設業など、チェーンソーを業務で使用する全ての業種が対象となります。詳細は、厚生労働省より公布された文書をごらんください。

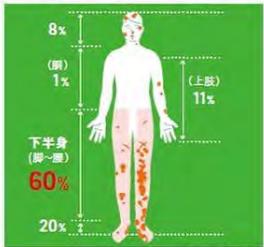
林業における作業の種類別死者数  
(平成27-28年発生分79名の内訳)



作業の種類	割合	人数
伐木作業 (チェーンソー作業によるもの)	62%	49人
伐木作業以外の作業	35%	28人
伐木作業 (チェーンソー作業以外のもの)	3%	3人

出典: 厚生労働省

チェーンソーで傷つけた部位の比率  
下半身への切創事故が6割



部位	比率
下半身 (脚・足)	60%
(上半)	11%
(頭)	1%

出典: ハスラーナセア

■高所で作業される方へ

安全帯の名称が「墜落制止用器具」に変わり、「フルハーネス型」の使用が原則となります。

構造規格も変わり、使用方法も変更になるので「安全衛生特別教育」が必要となります。

# 樹木医一年生の活動報告 2018

国土防災技術北海道(株) 木戸口 和裕 (27期)

私は樹木医に2017(平成29)年12月に登録されたので、2018年が樹木医1年生だった年となります。この年の3月までは北海道空知総合振興局森林室、4月からは国土防災技術北海道(株)と勤務先が変わり、私にとっては人生の大きな転機となった年でした。3月までは、木育の一環として、4月からは一企業のCSR(緑化技術開発のための試験施工を含む)の一環の活動です。この紙面を借りてこの年の主な活動を振り返る機会としたいと思います。

## 1 桜に関する講演

### (1) 1月27日(土)、松前花の会総会での講話

この講話が樹木医になって最初の活動となりました。依頼先の「松前花の会」は、北海道松前町の桜の名所「松前公園」等で桜の保全活動を行っている団体です。私は同町に事務所がある北海道渡島総合振興局西部森林室に勤務していた時にこの団体に在籍しており、その縁からの依頼です。

講話は「松前の桜について」と題し、その主な内容は、①1959(昭和34)年5月5日に設立された桜の保全等に取り組む「松前町桜保存子供会」の活動は、北海道の「木育の1丁目1番地」であること、②新幹線時代を迎えるにあたって、地域振興策、観光振興策として、また、桜の維持管理技術・讚桜文化の普及を図る目的で、2014(平成26)年から2015(平成27)年の2年間8回の「さくらセミナーin松前」を企画したこと、③「玉姫」や「暁南殿」など松前公園から失われた栽培品種の復元のため里帰りを図ったこと、④「コリングウッド イングラム」、「舞姫」など松前公園に新たな栽培品種の導入を図ったこと、⑤物語のある桜の解説標識の企画をしたこと、⑥日本の桜の栽培品種の遺伝子資源の保管庫としての道、桜ガイドの養成などソフト対策の充実した桜の名所としての道など、松前公園の今後の目指すべき方向に関する提言です。



「玉姫」2013.4.13 結城市



講話状況(矢野旅館広間)

鎌倉兼助氏が基礎を築き、桜守浅利政俊氏が育てた松前公園等の桜が、今後とも日本の桜の遺伝子資源の保全の役割を果たし、かつ、地域の振興に活かされていくように、今後とも関わっていきたいと思っています。

## (2) 7月17日(火)、北海道森林土木設計協会主催積算等説明会での講演

勤務先の国土防災技術北海道㈱が北海道森林土木設計協会の会員ということもあって、同協会からの講演依頼を受け、講演しました。

講演は「日本の桜、北海道桜～概要・植栽・保育技術等について」と題して、その主な内容は、



「フジミン」カタログのリーフレット

①エドヒガン、オオヤマザクラなど日本の桜、北海道桜の概要、②密植の防止など植栽の留意点、③てんぐ巢病、サクラ類こぶ病、コスカシバといった病害虫など保育上の留意点です。

また、保育の「助っ人」として、樹勢の衰えた樹木の回復のため、フルボ酸の植物活性剤「フジミン」(販売元：サンスイ・ナビコ㈱)を紹介しました。「フジミン」は、その特性であるキレート効果により、土壌内のミネラルを効率的に植物内に取り入れることにより、光合成量を高める効果とともに、pH緩衝能があります。農業、林業、水産業の光合成を行う植物に活用すれば、生産量の増大等に役立つ可能性があると考え、営業しているところです。後述する保育作業等で実証試験も兼ねて施用をしており、報告すべき成果がまとまれば別途報告します。

## 2 桜の保育

### (1) 3月28日(水)、長沼町での桜の保育



馬追温泉の老齢の桜

金田正弘樹木医(11期)、玉田孝氏と関口修氏の2人の指導林家(「指導林家」：北海道知事が認定している模範となる林業経営者)、地元長沼町役場職員1名、森林室から2名が参加し、馬追温泉の桜(オオヤマザクラ：てんぐ巢病罹患木あり)の保育を午前中にできる範囲まで行いました。

午後からは長沼温泉の桜(オオヤマザクラ：てんぐ巢病とサクラ類こぶ病罹患木あり、ソメイヨシノ：てんぐ巢病罹患木あり)を同温泉の指定管理者関係者数名も加わって、枯枝等の除去を行いました。

馬追温泉はこの年の10月末で1908(明治41)年からの営業を終了してしまいましたが、創業時に植えたオオヤマザクラがあり、樹勢は衰えています、今後も少しでも延命させたいと思っています。

## (2) 岩見沢市北3条西13丁目の桜並木の保育



枯枝等の除去作業

5月28日、関口修指導林家、空知総合振興局森林室3名と当社2名との協働で、岩見沢市北3条の桜並木（地元3町内会が管理）の枯枝の除去、植物活性剤「フジミン」の散布など保育作業を行いました。

詳細は、国土防災技術北海道㈱のホームページ、2018年度アーカイブ「岩見沢市北3条西13丁目の桜並木の保育活動について」をご覧ください。

<https://jce-hokkaido.co.jp/newslist/?y=2018>

## 3 桜以外の保育

### (1) 11月10日（土）、北海道松前町法幢寺での孟宗竹林での間伐等



法幢寺の竹林

北海道松前町法幢寺（ほうどうじ）境内にある孟宗竹林で間伐等の作業を実施しました。

孟宗竹林は、北海道では珍しい風景を醸し出し、また、過去の本州との交流の歴史を示すものとして、北海道の古都・松前の観光の一翼を担っています。このような竹林を、健全な林とし、美しい景観づくり、竹材資源の有効活用に資する目的で、間伐を行いました。林内にはすでに間伐された竹が堆積され、その処理に時間がかかり、竹の間伐は40本程度にとどまりました。

詳細は、国土防災技術北海道㈱のホームページ、2018年度アーカイブ「北海道松前町法幢寺での孟宗竹林での間伐等」をご覧ください。

<https://jce-hokkaido.co.jp/newslist/?y=2018>

### (2) 11月15日（木）、北海道当別町開拓記念樹イチイへの「協働」での保全作業

北海道当別町の当別神社に隣接した公園内にある当別町開拓記念樹イチイの保全作業を実施しました。

9月5日（胆振東部地震発生前日）の台風21号による強風で、隣接していたハルニレの木が「浴びせ倒し」によってイチイを直撃し、幹や枝を折損しました。管理者である当別町では、腐朽が進んでいるものの、このイチイをできるだけ延命させたいということで、折損部に殺菌剤を塗布していました。しかしながら、本格的な保全作業の着手には諸般の事情から難しい、との話をお聞きしました。

そこで、当社のCSR活動の一環として、当別町等との「協働」で行うことを提案し、ご了解いただいたことが経緯となっています。

詳細は国土防災技術北海道㈱のホームページ、アーカイブ「北海道当別町開拓記念樹イチイへの「協働」での保全作業」をご覧ください。

<https://jce-hokkaido.co.jp/newslist/?y=2018>

施肥や植物活性剤「フジミン」が老齢木に対してどの程度有効かなど注視していき、報告すべき成果があれば、別途報告します。



作業後のイチイの状況

#### 4 強酸性土壌の緑化試験

##### (1) 10月18日(木)、知内町小谷石中の沢での酸性硫酸塩対策緑化工の試験施工



試験施工地

知内町小谷石地区は、1973(昭和48)年9月24日、大雨による大規模な土石流災害が発生し、死者・行方不明者8名となる大惨事となりましたが、治山・砂防工事等の施工もあって復興し、今では矢越岬や「青の洞窟」へのクルージング基地として、知内町の主要な観光拠点となっている漁業の集落です。

10月18日に、小谷石中の沢の治山事業施工地において、酸性硫酸塩の影響で緑化不成績地へ対策を試験施工しました。

詳細は国土防災技術北海道㈱のホームページ、2018年度アーカイブ「知内町小谷石中の沢での酸性硫酸塩対策緑化工の試験施工」をご覧ください。

<https://jce-hokkaido.co.jp/newslist/?y=2018>

今回行いました中和対策が確実な緑化に結びついていくかを継続的に観察し、報告すべき成果があれば、別途報告します。

## 5 木育活動

### (1) 3月30日(金) 岩見沢市上志文のオオヤマザクラの解説標識の設置



上志文の桜

上志文のオオヤマザクラは推定 100 年を超える老齢の桜で、2017 (平成 29) 年 6 月 22 日 (木)、空知桜の維持管理実行委員会 (空知指導林家連絡協議会、森林室) が金田正弘樹木医 (11 期) を講師に迎え、この桜で保育管理実習を行っています。

私はこの桜への解説標識の設置を企画し、その作成費用は、私と指導林家である玉田孝氏、関口修氏、逢坂利一氏の計 4 名が負担し、英

訳は三重県鈴鹿市在住の桜研究家倉田浩道氏が行い、標識板は「木族工房」(代表永井将人氏)、解説板は(有)アール・ドゥ (代表吉田条昭氏) 等に作成を依頼しています。年度末の 3 月 30 日に標識を現地に設置し、これが私にとって道職員時代の最後の作業となりました。

解説標識では、この桜のエピソードとして、歌手藤圭子氏やかつての岩見沢市の料亭「酔月」について触れています。興味のある方は、岩見沢市上志文地区の歴史の生き証人であるこの桜を、是非、一度訪れていただければ幸いです。

### (2) 8月3日(木) 木育勉強会の開催

樹木医同期である太田由紀氏 (㈱フォレストアドベンチャー、以下「FA」といいます: FA 長野勤務) と共催で、「北海道命名 150 年記念『木育勉強会～新しい森林の楽しみ方～』の開催」と銘打ち、FA 恵庭 (平成 4 月 28 日オープン: 恵庭市西島松 275 番地「ルルマップ自然公園ふれんど」内・道央自動車恵庭 IC より車で約 15 分) で開催しました。

北海道水産林務部や胆振総合振興局森林室の木育担当者の方や道民の森の指定管理者の方、当社から 3 名の計 14 名が参加し、太田由紀樹木医の指導を受け、アドベンチャーコースなどで、非日常的な視点での森林の中での空中散歩や滑空などを体験しました。



解説標識の内容



指導中の太田由紀樹木医

本勉強会は、森林の利用、森林環境への負荷、体験者の安全性などについて意見交換を行い、2020(平成32)年の全国育樹祭、道民の森、そして北海道命名200年に向けて、新たな木育の展開を考えるひとときとなることを目的としました。

詳細は国土防災技術北海道㈱のホームページ、アーカイブ「木育勉強会の開催」をご覧ください。

<https://jce-hokkaido.co.jp/newslist/?y=2018>

### (3) 9月16日(日) 松前マグロ祭での木育活動



イスづくりの状況

北海道松前町で開催された「第4回松前城下マグロ祭」に、「木族工房」(代表永井将人氏)の一員として、北海道産のスギ材によるイスづくりなど、木工を通じての木育活動に参加しました。当社から2名、サンスイ・ナビコ㈱から1名の計3名で、慣れない金槌で釘を打つ子供たちのアシスタント役を務め、子供たち等と短い時間での心のふれあいとスギ材の心材・辺材の色の違いや軽さなど、五感で木を感じるひとときとなりました。

詳細は、国土防災技術北海道㈱のホームページ、アーカイブ「松前マグロ祭での木育活動」をご覧ください。<https://jce-hokkaido.co.jp/newslist/?y=2018>

# 『2018 北海道の巨樹・名木 150 選』について

今田 秀樹 (25 期)

私は 2015 年、樹木医になったことをきっかけに北海道の巨樹・名木について勉強しようと思い、2017 年から 2 年をかけて 150 本を調査し、2018 年、北海道命名 150 年記念にあわせて『2018 北海道の巨樹・名木 150 選』(写真 1) を写真集として自費出版しました。

当初、写真集を出版することは考えていませんでしたが、調査が進むにつれて自分だけの勉強の資料とするのではなく、より多くの人たちに北海道の巨樹・名木を知っていただきたいの思いから出版することを決めました。

今回、この調査に費やした時間などを簡単に説明します。

調査は 2017 年 8 月から 2018 年 9 月まで足掛け 2 年を要しました。この間の土日等を利用して、実質 66 日と走行距離約 2 万 6 千 km を走り、妻と 2 人で 150 本を調査しました。単純計算で 1 日約 400 km を走り、2、3 本/日の巨樹・名木を調査したことになります。

調査は主に土日でしたが、その準備は平日、仕事が終わってから全道の週末の天気を調べ、調査箇所を資料や予定コース 2～3 箇所を準備、金曜日の夜に行先を決定し、土曜日の朝早く調査に走ることを繰り返しました。桜の花の咲く時期は、全道を股にかけて 1 日千 km を走った日もありました。

今回 150 本を調査しましたが、「131 庚申の杉」(奥尻町)、「133 ヒバ爺さん」(厚沢部町) の 2 本以外の 148 本の樹木は、すべて 2 回以上は調査や写真撮影で巡っています。言い換えれば先の 2 本だけは一発勝負の調査でした。

話は前後しますが、この調査をはじめに当り主に参考にした本は、『北海道の巨樹・名木』(150 本) 社団法人北海道国土緑化推進委員会 1993 (写真 2)、『北海道百年記念 北海道の名木美林』(100 本) 北海道国土緑化推進委員会 1968 (写真 3)、『北海道の名木美林』(98 本) 北海道林業會 1933 (写真 4) の 3 冊でした。この他に「北海道記念保護樹木」(107 本) やインターネットを通して道内の巨樹・名木などの資料を集めました。この中で、『北海道の巨樹・名木』に載っていた 150 本を追跡調査することにしました。



写真 1 2018 北海道の巨樹・名木 150 選 B5 判



写真 2 北海道の巨樹・名木 1993 (平成 5) 年 A5 判



写真 3 北海道の名木美林 1968 (昭和 43) 年 B5 判



写真 4 北海道の名木美林 1933 (昭和 8) 年 B6 判

しかし、『北海道の巨樹・名木』が出版されてから既に25年の年月が流れ、今回の写真集に収録することができた樹木は136本で、残り14本(表1)は伐採などされて載せることはできませんでした。その内訳は、風倒や伐採木が11本、現存木が3本(写真5～7)となっています。

**表1 『北海道の巨樹・名木』の中で伐採などされた樹木**

No.	支庁	樹木等の名称	所在地	所有者	樹種	幹周 (cm)	直径 (cm)	樹高 (m)	樹齢 (年)	備考
1	渡島	瑞石神社の杉	上磯町	瑞石神社	スギ	325	104	23	300	台風で倒木
2	渡島	縁結びのご神木	上磯町	横山広市氏	カツラ	240 310	76 99	22 22	200	現存木：到達困難
3	渡島	七飯の一本栗	七飯町	一本栗地主神社	クリ	480	153	15	600	枯損
4	檜山	基之丞杉	上ノ国町	江差営林署	スギ	310	99	28	310	現存木：到達困難
5	後志	浅川農園のあかまつ	小樽市	釧路市浅川興業	アカマツ	197 194	63 62	17	100	倒木
6	空知	妹背牛神社のハルニレ	妹背牛町	妹背牛神社	ハルニレ	599	191	22	700	伐採
7	上川	護国神社のハッコヤギ	旭川市	北海道護国神社	ハッコヤギ	477	152	17	400	台風で倒木
8	上川	和寒の巨木	和寒町	和寒町	ミズナラ	620	197	18	1000	倒木
9	留萌	泉源のみずなら	天塩町	天塩営林署	ミズナラ	540	172	16	300	風倒
10	宗谷	精英樹枝幸104号	歌登町	枝幸営林署	エゾマツ	207	66	28	170	現存木：到達困難
11	網走	常善寺	北見市	常善寺	ハルニレ	462	147	24	300	台風で倒木
12	網走	若佐のオハヤギ	佐呂間町	佐呂間町	オハヤギ	394	125	17	300	不詳・伐採?
13	十勝	炭山の御神木	士幌町	上士幌営林署	ミズナラ	750	239	21	800	風倒
14	十勝	誠満寺のシダレヤギ	帯広市	誠満寺	シダレヤギ	428	136	20	70	伐採

参考：上記の14本は『北海道の巨樹・名木(1993)』から抜粋。

『北海道の巨樹・名木』(1993)から『2018北海道の巨樹・名木150選』には136本が掲載されている。



写真5 縁結びのご神木



写真6 基之丞杉



写真7 精英樹枝幸104号

風倒や伐採木のほとんどは、台風による風倒と倒れる危険性があったことから伐採されたものでした。一方、現存木は、道路等が崩れて行くことが難しく、このため所有者も、最近、これらの樹木を確認していないとのことでした。今後、この3本については機会を見て確認したいと思います。

『北海道の巨樹・名木』では14本が伐採等されていたため、先の『北海道の名木・美林』や「北海道記念保護樹木」などから新たに14本を選び150本として、今回の写真集『2018 北海道の巨樹・名木150選』が完成しました。

ちなみに『北海道百年記念 北海道の名木美林』100本の内、現存木は81本、消滅・不詳は19本でした。現存木の81本は、今回の写真集に掲載しています。

また、『北海道の名木美林』98本の内、現存木は40本、消滅・不詳は58本でした。本当は今回の写真集にこの40本の当時の写真（この内、写真のあるもの28本）なども載せたかったのですが、写真集のスペースの関係などから断念しました。しかし、この現存木40本は今回の写真集の中に現在の姿を留めています。

さて、2017年、森町の桜田通雄氏（15期）が『樹守』（2017 No.26）の中で、『記念保護樹木の保護強化を』と書かれていました。この中で「記念保護樹木の現状と施策上の疑問点」や「新たな位置づけと保護強化」などを述べられていました。

今回、私はこの調査で記念保護樹木や多くの巨樹・名木を診てきましたが、しっかりと保護管理されている樹木もあれば、地元でも関心の薄い樹木や保護管理の行き届いていない樹木などが見受けられました。今後、これらの樹木をいかに保護管理して行くのか、なかなか難しい面もあり私にはまだその解決策は見当たりません……。

しかし、私も樹木医の一人として、まず、北海道には多くの記念保護樹木や巨樹・名木などがあることを道民の方々に知ってもらうこと、そしてこれらの樹木に関心を持ってもらうことが必要だと考えています。そのためにも、今回出版した写真集が、そのPRに少しでもお役に立てれば幸いです。

## 樹木医 今田秀樹氏による待望の一冊！ 「2018 北海道の巨樹・名木150選」

1993年以來の北海道の巨樹・名木25年間の空白を埋める。  
夫婦で北海道中を走って調べた貴重なデータと写真集。



今田 秀樹 著、(公社)北海道森と緑の会 協力  
2018年11月22日発行、B5判、164頁  
頒価 2,800円+税

## 第3回事例発表会報告

研修担当 阿部 正太郎（12期）

北海道では雪に閉ざされた冬季間を利用して、前年に会員が実践した活動事例を発表する「事例発表会」を開催しています。今年で3回目となり、29名の会員が参加して2月15日（金）13：15～17：15に「カデル2・7」1010会議室で行われました。

発表の前に豊田支部長から2月2日に亡くなられた石川忠雄樹木医のお話があり、黙とうを捧げ、ご冥福をお祈りしました。石川氏は数年前に体調を崩されるまでは遠方の釧路から総会、研修会にはいつも参加していました。77歳という若さでもあり、本当に残念でした。

また、昨年、北海道支部の道外会員になり、今回参加してくれた愛知県支部の阿部敬子樹木医（25期）の紹介もありました。阿部樹木医は北海道（音更町）にも自宅が有り、来道する機会が多く、北海道の樹木も勉強したいので北海道支部の活動への参加を希望されたとのことで、懇親会にも参加されました。

### ■プログラム

13：15 ～13：20	開 会 主催者挨拶 北海道支部長 豊田 栄	
13：20 ～14：00	本別開拓記念保護樹木「ハルニレ」の診断について	樹木医 今田 秀樹
14：00 ～14：40	JR篠路駅前のヨーロッパクロマツの移植に伴う樹勢診断と土壌調査について	樹木医 真田 勝
14：40 ～15：00	休 憩	
15：00 ～15：30	台風21号による平岡公園の風倒被害	樹木医 熊谷 恒希
15：30 ～16：10	①石炭露天掘り跡地における樹木の育て方 ②海の見える街に適した緑化樹	樹木医 清水 一
16：10 ～16：30	「奇跡の一本松」は何故残ったか？	樹木医 吉田 憲一
16：30 ～17：10	直近の桜事情	樹木医 金田 正弘
17：10 ～17：15	閉 会	

#### 1 本別開拓記念保護樹木「ハルニレ」の診断について

今田樹木医は北海道の記念保護樹木に指定されている、ハルニレの診断事例を発表しました。最初に北海道の記念保護樹木の説明、次いでハルニレとはどんな木か、その由緒由来、現況、土壌、周辺環境、樹木の形状（樹高や枝張り、樹冠など）、外観診断（根元部から頂頭部まで腐朽が進み、大人が入れるくらいの空洞になっている）、精密診断（レジストグラフによる空洞率は45%）、総

合判定はやや危険。今後の対策として枝の剪定・支柱の管理・根元の管理・腐朽と空洞部の処置・日頃の観察と定期的な調査診断が必要である。

以上が主な内容でしたが、紙面の関係から詳しく記述できず残念です。綺麗で鮮明な写真やグラフ、文章を沢山使った説明で、危険な状態にある樹木を保全するためには風圧や積雪・大枝など幹へ掛る負荷を軽減し、倒伏や幹折れなどの危険性の排除が必要であり、そのためにはなにをやらなければならないかという結論は理論的ですが絞られており、良く理解できました。



## 2 JR篠路駅前のヨーロッパクロマツの移植に伴う樹勢診断と土壌調査について

真田樹木医からの発表は、このヨーロッパクロマツは 1935 (S10) 年、札沼線の全線開通時に植栽された可能性が高く、以来、付近住民や篠路駅利用者に親しまれ今日に至っている。樹高は 10m、幹周 181 cm、枝張りは東西南北とも 8m で均整はとれている。

2020 年に着手予定の駅舎高架工事に当たり、支障木となったが長年の想いを寄せる人々からの保存の要請を受け、移植可能かまた価値があるかなどの判断材料として樹勢及び土壌調査を行った。調査の結果、樹勢は旺盛で傷や腐朽に関して全く問題はない。また、根元内部の精密診断でも内部腐朽は全く確認されなかった（この樹勢調査は吉田樹木医が行った）。

土壌に関しては、植栽内は 50 cm ほど客土が盛土されており、地表から深さ 15 cm 迄は根の分布はなかったが、その下は通常の根系分布で西側の駅舎に向かって太い根が 2 本アスファルトを持ち上げて走っていた。植栽外側の東側の土壌は石狩低地の粘土地帯で、排水の悪い重粘土であった。

植栽予定地（駅西口）の土壌は砂丘未熟土で養分に乏しく、また、盛土造成され、砂層の上に碎石（瓦礫）が極めて強く締め固められて不透水層となっている。その上に円礫を含む黒土が敷かれているが、排水不良で芝の生育も不良であり、ここに移植するのであれば大規模な土壌改良が必要となる。その後、移植場所は変更になり駅舎側で現在植わっている場所から 10m 位のところになるのではないかということでした。



## 3 台風 21 号による平岡公園の風倒被害

平岡公園に勤務の熊谷樹木医から 9 月 5 日の台風 21 号による平岡公園の風倒被害の発表がありました。最初に天気図、各種気象データなどを使っての台風発生と進路、風速や発生数と上陸数の推移、今回の台風（21 号）と平成 16 年の台風（18 号）の進路比較などの詳しい話があり、台風について学ぶことが出来ました。次に平岡公園内各所での色々な樹木の風倒や幹折れの状況を

山の生々しい写真で見ることができました。風の強さ、吹いてきた方向などが良く分かり、何故倒れたのか、今後倒れないようにするにはどうしたら良いかなど、色々のことを知る事ができる貴重な記録でした。

#### 4 ①石炭露天掘り跡地における樹木の育て方・②海の見える街に適した緑化樹

この二つは道総研林業試験場に勤められている清水樹木医からの発表でした。最初に「石炭露天掘り跡地における樹木の育て方」ですが、要旨は次の通り。

北海道では普通に石炭層の露出が見られるが、現在露天掘りの行われているのは空知地方だけで、露天掘り跡地の土壌は貧栄養で風化しやすく透水性が極めて悪い。ここで樹木を育てるために、どのような樹種が適しているか、3つの試験区を設け検証してみた。

試験区1(斜面)：そのまま色々の樹種を植えて適した樹種を探した

試験区2(斜面)：客土を実施し、客土の効果を検証

試験区3(平坦)：地形を作り植栽、効果を検証

結果として成長が良く、適した樹種はケヤマハンノキ・コバノヤマハンノキ・イヌエンジュ・カラマツ・バンクスマツ・ニセアカシア・シラカンバ・アキグミで、成長が悪く、適さない樹種はアカエゾマツ・ミズナラ・カシワ・イタヤカエデ・ウダイカンバ・ノイバラ・マルスグリ・ハマナスであった。

次に「海の見える街に適した緑化樹」では、海岸荒廃の原因は自然に起因する波浪・高潮・海流変化による海岸浸食と人為に起因する伐採・燃料材等で使用・砂の採取・遊びによる植生破壊であるが、このうち海岸における樹木枯損被害の大きな原因は塩風による飛来塩分なのでこれについて調べてみた。なぜ塩風なのかであるが、広葉樹の場合、葉の落ちた痕などから塩風の塩分が侵入して枝の組織を枯死させていく。夏は雨で塩分が洗い流されるが、冬はそうならないので冬に被害が多くなる。針葉樹は最初に葉が枯れる。そして、海から風速7m/sec以上の強い風が吹くと飛来塩分が多くなる。特に地上高2m前後で塩分濃度が高くなる。

全道各地について、降雨が無く、この強い風の吹く日数を調べてみたが、日本海側の初山別(104日)、江差(125日)が多く、太平洋側の苫小牧(31日)、釧路(78日)、オホーツク海の紋別(14日)は少なかった。これが地域によって塩風被害に差のある原因である。また、同じ地方の風でも西から吹く風に被害の多いのが分かった。塩風に強いとされているカシワとミズナラでも内陸産の木と海岸産の木とでは強さに違いがあるので注意が必要である。

塩風に強い樹種としては、モンタナマツ・アカエゾマツ・クロマツ・海岸産カシワ・道北海岸産ミズナラがあり、弱い樹種としてはカラマツ・カンバ類・サクラ類ほかがある。

塩風被害の他に、冬季の乾燥害があるが、これは主に針葉樹で発生しやすく、冬季に積雪が少なく、土壌が凍結する地域に多い。強風によって葉が強制的に脱水されると土壌が凍結しているため、根からの水分補給が出来ずに樹木が乾燥して枯死してしまう。

このような内容で、綺麗な写真やグラフ・図などを沢山使った発表で、良く理解できました。

#### 5 奇跡の一本松は何故残ったか？

吉田樹木医は平成28年、29年にあの有名な「奇跡の一本松」を二度見に行っています。その

時のことを「『奇跡の一本松は何故残ったか?』～もしも賢治が樹木医だったら～」という題名で  
昨年の樹守に書いていますが、今回、その時撮った写真をもとに改めて発表されました。

この松は樹高 25m、枝下高 18m、胸高直径 73 c m、根元直径 95 c m、葉張りは東西 14m・南  
北 7mの扁平で背の高い、頭でっかちのネギ坊主みたいだった。そして、この松は海よりの松林  
から 50m離れた孤立木だった。津波の高さは 12mなので細い棒 1本を通り抜けていくことができ、  
7万本の集団は全滅したのに孤立していたため、ドミノ倒しも逃れて生き残ったと私は診断した。  
しかし、この松も何日も塩水に浸かっていたため、それには抵抗できず夏には枯死していたよう  
だが、正式には翌年 5月に枯死と地元で診断された。根から水分を吸収して生きているのが木な  
ので、塩水を吸って枯死するのは当たり前のことであり、奇跡の一本松も唯の木であった。それ  
が一本だけ生き残った。そのことに皆は感動するのだと思う。今回生き残った原因は分かったが、  
そういうことからすれば分からなかった方が良かったのかもしれない。

もう 1つ感じたことがある。至る所に高い防潮堤が造られていて海が見えなくなっている。“海  
を生業とするもの海を見（接し）、木（山）を生業とするもの木をみるべし”との言葉が自然と強  
く浮かんできた。以上が、色々の状況写真や図により発表されました。

なお、吉田氏は西表島にも行きました。その時のことを「樹木医ケンさんの西表島レポート」  
西表島の海・山・樹木（マングローブ）と共に歩いた 3日間 70キロの静かな旅の話として、3月  
8日（金）19:00～スライドショー（1時間半）を行うとの案内もありました。吉田さんの行動力  
にはいつも驚かされます。

## 6 直近の桜事情

北海道支部の桜の第一人者である金田樹木医が現在、手掛けておられる新ひだか町の二十間道  
路桜並木、浦河町西舎の桜、小樽宏楽園の桜等（これらは道内で屈指の桜の名所）で、ここで今  
までにやってきたこと、成果はどうであったか、コシジロトゲアシハバチの大発生による被害と  
その防除、台風による風倒、現在抱えている問題、これからやろうとしていること、ここに植え  
られている珍しく貴重な桜などについて色々と綺麗な写真をもとに発表・紹介しました。今まで  
見たこともないような綺麗で珍しい桜があるのだなということと、それを育てるのはさぞかし楽  
しいだろうなと改めて感じました。

## むすび

今回、感じたことの第一は発表内容もさることながら資料の素晴らしさで、実に綺麗で鮮明で  
豊富でした。次に時間で、4時間の発表時間は少し長いかなと思っていましたが、そんなことは  
なく最終的に時間は足りず、30分以上超過して 18:00 少し前に終わりました、この事例発表会の  
良い所は活発な意見交換にあるので、この意見交換時間が充分取れるようにする必要があるよう  
に思いました。また、体験したことを発表してもらうことによって、それを自分の体験として役  
立たせることが出来ます。昨年も今年も支部会員の約半数の参加でしたが、是非、多くの会員が  
参加して、知識と技術の向上に役立たせたら良いと思います。発表会後の懇親会は何時もわいわ  
いがやがやと盛り上がり面白く、私などを含めて、これを楽しみにしている会員も多いよう  
です。以上、発表された会員皆様のご努力に感謝して報告と致します。

## 日本樹木医学会静岡大会に参加して

豊田 栄 (11期)

平成30年度の定時社員総会が、6月8日(金)静岡県浜松市のアクトシティ浜松コンgresセンターで開催され、会場には全国から290人の会員が参加しました。アクトシティ浜松はJR浜松駅に隣接し、浜松市と民間の施設によって構成される複合施設群で、A～Dの4つのゾーンに分かれており、各ゾーンは通路で結ばれています。

会場のコンgresセンターはAゾーンにあります。隣のBゾーンにはJRの電車の中からもよく見える浜松市のランドマークである超高層複合商業ビル・アクトタワーが建っています。このビルは会場へ向かう際の目印となりますが、ただ会場までの道順がやや難しく、大会参加者の中にはちょっと迷う人もいたようです。

JR浜松駅に隣接する大会会場のアクトシティ浜松を含めた市の中心市街地は、街路樹が公園・緑地を連続的に結んでおり、緑豊かで良質な住環境が創られています。まさに楽器のまち、音楽のまちにふさわしい品の良い街並という感じがしました。ただ冬は北西の強い季節風・「遠州のからっ風」が吹きますのでかなり寒いということです。

さて会場へ入ると受付ロビーでは、静岡県支部の皆さんが元気に明るく私たち大会参加者を迎えてくれ、洒落たヒノキの木製の名札を手渡してくれました。またロビーでは書籍販売、各種土壌改良資材・樹木養生資材、樹木診断機器等の展示会が行われており、多くの人で賑わっていました。

社員総会は13時に開催され、会長挨拶、来賓祝辞・紹介、議案審議の形で進みました。来賓として出席されていた静岡県知事は、お茶のPRよりも浜名湖花博跡地を都市公園にした浜名湖ガーデンパークが、多種類の草花と樹木の植栽により今は素晴らしい公園になっていることを含め、今後も美しい街並づくりを進めていく旨の話をされていました。また浜松市長は浜松市が花と緑のまちづくりをテーマとしている街であること、この10年間に大きな花イベントを3回成功させていること等を挙げ、この先も花と緑の美しい街づくりを目指していくと力強く話されていました。市街地を歩いてみて確かに市長の話にはうなずけるものがありました。

13時にスタートした社員総会は最後の議案である役員改選案が、異議なく原案通り承認・議決されすべての議案審議が終了しました。社員総会閉会后、休憩を挟んで3名の講師による樹木医講演会が行われました。最初に浜松市楽器博物館長の嶋和彦氏の記念講演、続いて元浜松医科大学特任研究員の権守邦夫氏の講演、最後に樹木医事例報告として静岡県支部の塚本こなみさんの「大型フジの移植」の講演でした。

講演会のあと立食形式の交歓会に入りましたが、会場は全国から参加の会員、来賓の方、講演会で講師を務められたお三方など、多くの人でほぼ満員状態でした。会場の皆さんは元気に最後まで楽しく歓談されて大変賑やかな交歓会でした。

# 平成 30 年度「北海道支部技術研修会」報告

研修担当 阿部 正太郎 (12 期)

## はじめに

例年、秋に行われている支部の研修会は専門的分野、即ち、治療・樹病・腐朽菌・樹勢回復措置・土壌調査・移植などをテーマに行われてきたが、今年度は一度原点に立ち帰って、樹木医活動の基本となる樹木診断をテーマに行うことになった。

樹木診断により樹木の状態を明らかにして、治療や移植・樹勢回復措置・伐採などが行われるので、これは樹木医にとって基本的なことであり、また、樹病・腐朽菌などは樹木の状態を明らかにするために必要な知識である。

今回、これをテーマとした背景には、平成 29 年度に「都市公園法」の一部が改正になり、「公園内樹木の点検」を毎年行うことが明文化されたことにより、札幌市がこれに添って市内に 2,700 箇所ある公園樹木の点検と診断に向けての取り組みを始めたことから、これに備えようとしたことがある。このようなことから、研修会には大通公園や円山公園など大型公園の指定管理者になっている札幌市公園緑化協会 (22 人) と札幌工科専門学校 (12 人) から多数の参加要請があり、支部はこれを受けることになった。

研修会は当初、9 月 7～8 日 (土) を予定していたが、9 月 5 日の大型台風、翌 6 日には強度の地震に見舞われ、全道で甚大な被害を受けた。研修会の開催も危ぶまれたが、会場となっている平岡樹芸センターと八紘学園の協力の元、3 週間延期して、9 月 28 日 (金)～29 日 (土) に開催することとなった。参加者は風倒木の処理などのため若干減ったものの例年の倍の 67 人であった。

## 研修内容

研修内容と日程などは次の表の通りである。

区分	時間	項目	講師等	備考
1 日目 平岡樹芸センター	13:30～13:10	開会	豊田支部長	
	13:10～14:10	樹木の診断とカルテの作成(室内)	阿部樹木医	
	14:10～15:10	中径木の診断とカルテの作成(実習)	阿部樹木医	
	15:10～16:20	簡易樹木診断装置による診断(実習)	道総研林業試験場 脇田研究主幹	新たに開発された樹木内部欠陥非破壊診断装置
		レジストグラフによる診断(実習)	吉田樹木医	
	16:20～16:50	診断結果の検証と意見交換	阿部樹木医 吉田樹木医	
	16:50～17:00	樹芸センターの見学	鮫島樹木医 樹芸センター職員	
2 日目 八紘学園	09:00～10:10	大径木の診断とカルテの作成(実習)	阿部樹木医	
		レジストグラフによる診断(実習)	吉田樹木医	
	10:10～10:35	診断結果の検証と意見交換	阿部樹木医 吉田樹木医	
	10:35～11:00	各種機器による樹高測定	真田樹木医 今田樹木医	ブルーメライス、逆目盛検測桿 パーテックス、トゥルーパルス
	11:00～11:30	巨木の保全に関する意見交換	真田樹木医	

以下主だった点を記述すると

1日目 9月28日(金)

### 13:10~14:10 「公園樹木の診断とカルテの作成(室内講義)」

講師は私が努めたが教材には札幌市の「樹木診断カルテ」を使い、各診断項目の解説と診断に当たっての心構え、留意点などを話すことにした。特に診断には樹病や腐朽菌などについての知識や木槌打診技術、診断概要図のスケッチなどの必要性和伐採木判定については樹形や衰退度、腐朽の程度やその位置、傾斜や立っている位置、幹径と樹高・樹冠の形・大きさの関係などを少なくとも10年位の期間で総合的に評価する必要があることなどを話した。

必要性については、それが何故、何のために必要なのかということに留意し、その必要性和関心を持ってもらえるように心掛けた。

### 14:10~15:10 「同上実習：平岡樹芸センター敷地内 ケヤキ中径木」

現地で、幹周がそれぞれ96・123・75cmと3本株立ちして、根元部がかなり腐朽し根株も腐朽しているケヤキについて、これを各自診断してカルテを作成してもらった。それを、予め講師の作成したカルテと比較してもらい、講師が講評して意見交換を行い研修した。



15:10~16:20 道総研林業試験場で新たに開発中の(殆ど完成している)「樹木内部欠陥非破壊診断装置(Tree Health Checker)(仮称)による診断実演(道総研林業試験場 脇田研究主幹)」が行われた。

装置の仕組みは幹の両側に加振器と受振器を当てて規則的に振動を与え、発生した音のデータをパソコンで解析するというものであり、これにより、健全木か要経過観察木か要精密診断木かの3段階が判明するとしている。

この機器の利点としては診断には熟練や経験を必要としない、市販のタブレットタイプで操作が簡単、診断時間が短い(約2分)、ほとんど傷が付くこと無く非破壊、直径10cmから1m程度まで測定可能、樹種ごとの標準データを必要としないため、樹種名が分からなくても診断が可能としている。

実演では殆ど完成した状態で見ることが出来、良かったと思っている。性能が発揮され、広く普及し、これからの樹木診断に役立つことを期待している。



### 「レジストグラフによる精密診断と実演(吉田樹木医)」

レジストグラフは幹の樹皮・辺材・心材に順次針を貫入させ、その部分の材の硬さによる針の

貫入抵抗（レジスト）が折れ線グラフになって現れる仕組みの器具である。

端的に言うと、硬い部分が健全部、柔らかい部分が、腐朽部・空洞部ということになる。

吉田樹木医の実演と説明のもと、折れ線グラフが用紙に書かれるのを見て、空洞位置を判定し、空洞率の計算を皆で出来たのは良かったと思っている。ここで気を付けなければならないのは、樹木によって健全部と腐朽部の判定が難しいグラフになることもあるので判定には注意が必要である。

また、木槌打診などにより一番腐朽していると思われるところに針を貫入させるので、この技術も必要となる。



## 2日目 9月29日（土）

### 9:00～10:35 「大径木の診断とカルテの作成（実習）」八紘学園栗林石庭

根元部から頂頭部迄著しく腐朽し、空洞化している幹周 430 c mのイチイ大径木について、これを各自診断してカルテを作成してもらった。それを予め講師の作成したカルテと比較してもらい、講師が講評して意見交換を行った。

木槌打診で根元部から上部までの著しい異常音と手に伝わる感触、また、根元部への鋼棒貫入（60 c m）で腐朽の程度が良く分かったと思われる。



イチイ大径木

<カルテの総合的な所見、対応>は次のようであった。

「危険木であるが、重心は下に掛り、樹冠は小さく、枝葉密度も疎なので倒伏の危険性は緩和されている。また、位置的にみて倒伏時の被害は小さいので、枝葉を剪定して樹冠を軽くして保全を図ることも可能である。」

吉田樹木医によるレジストグラフについても、空洞部分がグラフにはっきり現れたので、グラフの見方や空洞率計算に役だったと思っている。

### 10:35～11:00 「各種計測器による樹高測定」

ブルーメライス・逆目盛検測桿・バーテックス・トゥルーパルスなど各種計測器による樹高測定を行った。操作を教えて札幌工科専門学生にやってもらった。同じような結果になるのか一寸気になったが、幸い不都合はなく、楽しく測定できた。

### 11:00～11:30 「巨樹の保全に関する意見交換（真田樹木医）」

八紘学園栗林石庭にはイチイの巨樹や 100 t を超える巨岩が随所に見られ、ここを巡りながら、

巨樹の保全に関しての意見交換を行った。

危険な枯枝剪定の必要性や現在の環境の中で長い間生きてきたので環境を変える時には十分な検討が必要などの意見が出された。

## 結び

支部会員以外の方も沢山参加しての研修会でしたが、参加者の協力のもと、無事終了する事が出来ました。いろいろ反省する点もありますが、これらを糧にさらに充実した研修になることを願っています。

冒頭で述べたように平成30年9月5～6日にかけて北海道は未曾有の災害に見舞われ、樹芸センターと特に八紘学園では風倒木が発生し、その処理などで大変な時期にも関わらず、支部研修会のために多大なる便宜を図っていただき、開催することが出来ました。

紙面を借りてお礼申し上げます。



### 【八紘学園 北海道農業専門学校について】

同校は農業の後継者、農業高校出身者のみならず、広く農業分野を自分の仕事にしてみたいと考える若者のための2年制の農業専門学校。昭和5年に故栗林元二郎氏によって創設され、校名は八紘一宇の理念から八紘学園となった。昭和8年には札幌・月寒東の現在の地に広い土地を得て、校舎、寄宿舎及び諸施設と農場を開設。以来、北海道をはじめ各地に多くの優秀な卒業生を送り出している。(学校概要から抜粋)



(写真は八紘学園 HP より)

問い合わせ・連絡先

学校法人八紘学園 北海道農業専門学校

〒062-0052 北海道札幌市豊平区月寒東2条14丁目1-34

TEL 011-851-8236(代表)

FAX 011-851-8269

# 平成 30 年度 日本樹木医会北海道支部の活動報告

事務局

日本樹木医会北海道支部は、北海道に住所を有する正会員及び北海道支部の会員になることを希望する道外会員（一般社団法人日本樹木医会の会員）と賛助会員（緑化・造園関係者）によって構成されており、平成 30 年度現在の会員数は、正会員 58 名、道外会員 1 名、賛助会員 6 名（団体）である。平成 30 年度における支部の主な活動は、次のとおり行った。

## 1 日本樹木医会の行事に関すること

### (1) 平成 30 年度一般社団法人日本樹木医会第 1 回理事会

平成 30 年 6 月 8 日（金）の総会に先立ち、静岡県浜松市「アクトシティ浜松コンgresセンター」で開催され、審議事項は通常総会における提出議案の内容の検討と確認であった。

### (2) 平成 30 年度一般社団法人日本樹木医会定時社員総会

平成 30 年 6 月 8 日（金）理事会に引続き豊田支部長が出席した。全国から正会員 2,312 名中 290 名が出席、委任状 962 名で規定数を満たし総会成立。議事は平成 29 年度の事業・決算報告、平成 30 年度の事業計画・予算(案)等を審議し、原案どおり承認・議決され審議が終了した（ニュース 116 号参照）。

### (3) 平成 30 年度一般社団法人日本樹木医会第 2 回理事会

平成 30 年 6 月 8 日（金）総会終了後開催され、会長（代表理事）及び常務理事の選定等が行なわれた。

### (4) 平成 30 年度一般社団法人日本樹木医会第 3 回理事会・第 1 回業務執行理事会合同会議

平成 30 年 8 月 4 日（土）東京都北区王子「北とぴあ」で開催され、豊田支部長が出席した。審議された主な議案は、人事に関する事項、理事会の運営、平成 30 年度地区協議会活動、各部会・委員会活動（事業計画、業務執行状況等）等についてで、各理事から出された要望や意見についての質疑応答が行われた。また、平成 31 年度富山大会開催の概要について説明があった（ニュース 117 号参照）。

## 2 北海道支部の総会・役員会

### (1) 総会

平成 30 年度北海道支部の通常総会は、平成 30 年 4 月 13 日（金）13:30～14:30、北海道立道民活動センター（かでの 2・7：札幌市中央区）で開催し、40 名（正会員 37 名、道庁・賛助会員等 3 名）の出席があった。総会では豊田支部長の挨拶に続き、来賓として出席された北海道水産林務部森林環境局森林活用課の濱田智子課長からご挨拶をいただいた。その後、新会員の紹介に続いて議長に高谷俊和氏（19 期）を選出し議案審議が行なわれ、平成 29 年度の活動報告と決算報告、平成 30 年度活動計画と収支予算（案）、支部規約の改正、支部役員の改選について原案どおり承認された。さらに、グリーンコーディネーター（10 名）の推薦、「樹守」28 号の発行、「技術研修会」の開催地等について承認された。

## (2) 役員会

第1回理事会を平成30年12月13日(木)かでの2・7で開催し、平成31年4月12日(金)の総会に合わせた講演会、冬期事例発表会等について打合せ、協議を行なった。

第2回理事会は平成31年3月13日(水)に開催し、平成31年度通常総会の開催、技術研修会の内容、支部活動計画、「樹守」28号の発行予定等について協議を行なった。

## 3 講演会・研修会

### (1) 講演会

講演会は、平成30年4月13日(金)14:40~17:50、かでの2・7、1060会議室において、北海道大学名誉教授 浅川昭一郎氏から「都市の公園緑地と緑の課題」～北のランドスケープを考える～、また北海道支部顧問 真田勝氏から「樹木の生育と土壌肥料」～私の林業試験研究から～と題してのお二人の講演をいただき、会員37名と道庁・札幌市等から10名、併せて47名が受講した。

### (2) 研修会

平成30年度の「技術研修会」は、当初9月7日(金)～8日(土)の予定であったが、台風21号及び胆振東部地震により延期し、9月28日(金)札幌市平岡樹芸センター、29日(土)学校法人八紘学園栗林石庭で行った。参加会員は1日目24名、2日目21名で、そのほか札幌市公園緑化協会の職員と札幌工科専門学校の生徒が見学された。

研修概要は次のとおりである。

#### (ア) 1日目

- ・公園樹木の診断とカルテの作成：研修担当理事の阿部正太郎氏による公園樹木の管理に関する動向と街路樹診断との違いなどについての講義を受けた。
- ・中径木の診断とカルテの作成：樹芸センター園内のケヤキを対象に阿部正太郎氏が診断を行い、その結果を参加者それぞれがカルテに記入することで、カルテの作成方法を学んだ。
- ・簡易樹木診断装置による診断：(地独)北海道立総合研究機構林業試験場の脇田研究主幹により、林業試験場が開発した装置による診断を行い、装置の仕組みなどについての説明を受けた。
- ・レジストグラフによる診断：吉田憲一氏がレジストグラフによるケヤキの診断を行い、診断結果に基づき腐朽(空洞)率の計算を行なった。
- ・診断結果の検証と意見交換：ケヤキの診断結果踏まえ、今後の対応などの所見についての意見交換がなされた。
- ・樹芸センターの見学：鮫島宗俊氏の案内で、園内の樹木についての説明を受けた。

#### (イ) 2日目

- ・大径木の診断とカルテの作成：栗林石庭のイチイ大径木を対象に阿部正太郎氏の説明を受け、参加者が診断とカルテの作成を行なった。
- ・レジストグラフによる診断：吉田憲一氏がレジストグラフによるイチイの診断を行い、診断結果に基づき腐朽(空洞)率の計算を行なった。
- ・診断結果の検証と意見交換：街路樹では危険木となり伐採対象となるが、公園樹木では保

全するためにはどのような方法があるかなどの意見交換がなされた。また、樹高が測定機器によって違いがあるのかを検証するため、目測、逆目盛検測桿、ワイゼ式測高器、ブルームライス、バーテックス、トゥルーパルスのそれぞれにより測定した結果、どの機器でもほぼ同じであった。

- ・巨木に関する意見交換：石庭園内を見学しながら、真田勝氏による植栽木の説明を受け、参加者による保全に関する意見交換がなされた。

### (3) 冬期事例発表会

平成30年度事例発表会を平成31年2月15日（金）、かでの2・7、1010会議室において、会員29名の参加者で開催した。発表者は、今田秀樹氏、真田勝氏、熊谷恒希氏、清水一氏、吉田憲一氏、金田正弘氏の6名で、発表者と参加会員との間で活発な質疑応答が行われ、樹木医の技術と知識の向上が図られた。

## 4 行事・活動に関すること

- (1) 北海道支部会報「樹守」No. 28を発行し、会員（正会員・賛助会員）に配付するとともに、日本樹木医会本部並びに都府県支部及び関係機関等へ配付した。
- (2) (公社)北海道森と緑の会のグリーンコーディネーター派遣事業について、会員の中から10名の推薦を行なった。
- (3) 森林総合研究所北海道支所一般公開における「樹木の相談コーナー」の相談員要請を受け、樹木医として7名の会員が参加し、13件の相談に応じた。(2018.6.9)
- (4) 日本樹木医会の会誌「TREE DOCTOR No. 25 公園樹木の管理」を賛助会員6法人に配付した。(2018.7.9)
- (5) 「道民森づくりの集い2018」が北海道開拓の村で開催され、北海道支部として「樹木相談コーナー」を開設し、会員7名の対応で、10件の相談に応じた。(2018.9.30)
- (6) 試験研究機関や関係団体等が開催するイベントへの参加を呼びかけた。

## 石川忠雄さんを偲んで

豊田 栄（11期）

樹木医 11 期生の石川忠雄さんが今年（平成 31 年）2 月 2 日にお亡くなりになりました。享年 77 歳でした。

北海道支部の樹木医 11 期生は 4 人でした。亡くなられた石川忠雄さんと金田正弘さん、小倉五郎さん、そして私です。石川さんはこの 4 人のなかでは一番年上でしたが尊敬できる心優しい先輩という感じで、石川さんを中心にお互い気遣いあっている仲間でした。

私が石川さんと初めてお話したのは、多分つくばでの樹木医研修が終わり、樹木医の資格を取得できた 11 期生の懇親会のような場だったと思います。会場が何処であったのか、誰が出席していたのか、詳細は殆ど覚えていませんが、結構な人数が参加していました。

その会場には食事用の丸テーブルがいくつも置かれていましたが、その中で偶然にも同じテーブルの隣の席に座っていたのが石川さんでした。その時の私は東京勤務でしたが、その前の勤務地が北海道であったことから、石川さんの北海道の林業に関するお話しを酒を呑みながら聞いていました。その時の強く記憶に残っている言葉があります。

石川さんは北海道大学林学科を卒業され、道職員として各支庁の林業指導事務所を駆け巡り、樹木医の資格を取得した時はちょうど釧路支庁（現釧路総合振興局）の釧路中部地区林業指導事務所所長を退職されて社団法人釧路地方林業会へ移られることが決まっていた頃だったと思います。呑みながらの話の中で、「公務員は公僕である。道職員である自分の勤めは道民サービスと考えて仕事をしてきたが、ただその面では十分とはいえ反省が多い。今後は樹木医として社会に貢献できるよう仕事をしていきたい」というような内容のことを言っていました。そのような言葉に私は大変感心しました。石川さんのこうした考え方は、樹守の「新会員紹介」を読んでいただくとよく分かります。

その後私の勤務地が再び北海道となり、石川さんとは毎年支部の通常総会で顔を合わせるようになりました。石川さんは律儀な方で、総会には毎年釧路から参加されていました。総会後の懇親会ではよく話しをしましたが、その時に感じたのは、最初にお会いしてお話をしていた時と少しも考えが変わっていないということでした。考え方にぶれがなく信念をもって樹木医業務、その他の仕事に向かう姿勢を貫いている様子がしっくり窺えました。

仕事以外の石川さんは囲碁の有段者で大変強く、また野球は阪神タイガースの大ファンでもありました。決して饒舌な方ではありませんでしたが、酒を呑むと楽しい方でした。

石川さんの納骨先は、本人の希望により石川さんがお生まれになった北見市留辺蘂温根湯温泉のお寺だそうです。ここには先に亡くなられた石川さんの奥様の遺骨も納められており、一緒に、とのことだったそうです。生前「キノコ採りに遊びにおいで」と何度かお誘いをいただいたのですが、ついに一度も実現できませんでした。今そのことを大変残念に思っています。心からご冥福をお祈りいたします。

## 1. 編集の目的

近年、貴重な樹木の樹勢回復と永く保存するため、樹木医の役割と活動は重要になっている。これに携わる樹木医相互の技術や情報の交換と、これらを事業としている人達との技術、情報の交換を行うことを目的に、定期的に情報誌を発行する。

## 2. 執筆者

一般社団法人日本樹木医会北海道支部の正会員、賛助会員、その他の関係者。

## 3. 発行回数

おおむね年1回とする。

## 4. 規格・体裁

表紙・裏表紙はカラー、本文は原則として白黒一色刷り、A4版とし、50ページ前後で適宜調整する。

## 5. 原稿の書き方

①原稿は原則として電子版とする。

原稿はA4版規格、体裁で編集するので、ワード原稿でメール添付またはCDなどで提出する。

②原稿の文字と規格

原稿の文字は常用漢字を用い、現代仮名づかいとする。

題字と執筆者のフォントはMSゴシック、本文はMS明朝を原則とする。

特別な字体を希望する場合は、画像として貼り付ける。

文字の大きさのポイント数は、題字は16pt、本文は10.5ptを原則とする。

③字数と行数およびページ数

1ページの基本体裁は、字数は一行43字、38行とし、余白は上下左右25mm。題名はセンターに、執筆者名は次行の右端に揃える。

図表、イラスト、写真などを入れる場合は、ゴシック体(8pt)でキャプションをつける。上下、左右1cm程度の余白を作る。

1課題4ページ以内を原則とし、最大でも6ページ以内とする。ページ番号は付けない。

④1文字あける場合

句読点、ハイフン、文の書き出し、改行のときは1字あける。

⑤用語、数字の使い方

学名や学術用語などは各学会の例によることとし、動植物や菌類の名称、外国の地名、氏名などはカタカナ、病名はひらがなを用いる。数字はアラビア数字を用い、学名は斜体文字とする。

⑥数値の単位

数値などの単位はC・G・S単位とする。(例 長さcm、重さg、広さm<sup>2</sup>、ha、時間s)

⑦本文を見やすくするため、大、中、小見出しを用い、見出しはMSゴシック体。

6. 原稿は編集者に電子版で送付する。随時受け付けし、毎年2月末日締切(厳守)とする。

【八紘学園での技術研修会風景】



測高器の説明を受ける	巨樹・巨石コレクション
栗林元二郎氏の顕彰碑	珍しい石のコレクション

《編集後記》

◎今回の支部技術研修会には札幌工科専門学校生が多数参加し、樹木診断や測樹の技術などを経験豊かな樹木医から直接学ぶ良い機会となった。八紘学園敷地内にある創設者の栗林石庭には氏が長年かけて収集された巨樹も多く、街中ではあまり出会うことが無い大きさの樹木に接して、よく観察する機会を得たことは良い経験となったであろう。この若者達がこれからの樹木文化を担ってくれることを期待したい。

◎昨年は台風や地震などの自然災害が多発し、9月の胆振東部地震では北海道全域がブラックアウトになるという前代未聞の事態に陥り、あらためてこの種の災害の恐ろしさを実感することとなった。被災地では徐々に復旧してきてはいるものの、農業などでは先行きの見えない状況が続いている。

自然現象も過激化しつつあり、地球温暖化の影響は無視できない局面になってきている。台風の巨大化や気温、降水量の増大、それに伴う土石流など山の荒廃とハザードエリアにまで開発行為が及んでその地に生活する人々の安全も脅かされている。

自然現象をコントロールすることはできないが、予想される危険から少しでも身の安全を守るには普段からの訓練と防災意識の持ち方が大切である。(熊谷)

樹 守 (KIMORI)

平成31年3月31日発行 通巻28号  
 発行 一般社団法人  
 日本樹木医会北海道支部  
 住所 〒064-0821  
 札幌市中央区北1条西21丁目3-35  
 株式会社 森林環境リアライズ内  
 電話 011-699-6830  
 発行人 豊田 栄  
 編集人 熊谷 恒希



(栗林石庭内の巨樹)